

令和3年度
事業報告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

目 次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	1
法人研修事業報告・・・・・・・・・・・・・・	5
地域福祉課事業報告・・・・・・・・・・・・	7

高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告・・・・・・・・	11
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告・・・・	15
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告・・・・	19
4. グループホーム八潮南事業報告・・・・・・・・・・・・	23
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告・・・・・・・・	27
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告・・・・・・・・	29
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告・・・・・・・・	31
8. 在宅介護支援センター事業報告・・・・・・・・・・・・	33

障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告・・・・	35
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告・・・・	39
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告・・・・・・・・	43
4. 品川区立心身障害者福祉会館生活介護事業報告・・・・・・・・	45
5. 品川区立心身障害者福祉会館機能訓練事業報告・・・・・・・・	47
6. 品川区立心身障害者福祉会館生活訓練事業報告・・・・・・・・	49
7. 相談支援事業 品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告・・・・	51
8. 品川区中延、大井第二、八潮障害者計画相談支援事業所事業報告・・・・	55
9. 品川区障害者地域活動支援センター事業報告・・・・・・・・	57
10. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告・・・・・・・・	59
11. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告・・・・・・・・	61
12. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告・・・・・・・・・・	63
13. 保育所 八潮中央保育園事業報告・・・・・・・・・・・・	65

その他

1. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告・・・・・・・・	67
2. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告・・・・・・・・	69
3. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告・・・・・・・・	71

令和3年度 法人事業報告

1. 重要課題

- (1) 本年度は、中期経営計画の最終年にあたり 1) 収支改善、2) 人権尊重、3) 人材育成・定着の課題について取組みを進めた。

1) 収支改善に向けて、各施設単位で収支計画進行管理シートによる、課題分析、改善策の検討を行い、又ピンポイントで課題のある施設へのフォローを行った。法人全体で取り組む課題として、超過勤務の削減、キュッシュレス決裁、人件費見える化、給食委託費検討、共通物品一括購入、夜勤手当検討、データ管理クラウド化について検討した。超過勤務については人材部会と連携し、意識改革を進め、法人全体では令和2年度比約5%減、令和元年度比で約40%減となった。

2) 人権部会で行った「不適切ケアに関する職員アンケート」結果のフィードバックを進め、各施設単位で「利用者支援」に関する課題抽出、目標設定、改善計画の取組みを開始した。法人全体では「職員モラル」の内容と合わせて、人権課題に関する職員からの提案等意見収集を行い職員全体で情報共有することで人権意識向上をはかった。

3) 人材定着を目的として、働き方改革基本方針試行版を実施。職員の健康増進、ワークライフバランス、事務の効率化、ICT活用、勤務制度検討、超過勤務削減の内容に関して、各施設での取組みを情報共有した。年度後半では基本方針の内容の周知をはかり、意見収集した上で、令和4年度本運用に向けて改定を行った。

人材育成では、個人研修計画、研修記録のデータ管理を実施した。また、職員採用については、応募者の重要な情報源であるホームページの改良を検討委員会の中で進めた。

- (2) 品川区立八潮北保育園の令和4年度運営業務委託に向け、準備を進めた。保育士の採用とともに、引継ぎ保育の実施など実務面の引継ぎを丁寧に行った。
- (3) 八潮中央保育園改修について品川区と協議し基本設計を進め、令和4年度の改修準備をした。
- (4) 八潮南特別養護老人ホームのICT導入準備を進め、介護記録ソフト、見守りシステム等を導入した。
- (5) 八潮南特別養護老人ホーム増改築計画に協力し、区と共に計画案の検討、作成に取り組んだ。
- (6) 高齢障害者相談について既存2か所に加え、三つ目の事業所として八潮在宅介護支援センターに設置した。
- (7) 障害通所サービスのニーズ分析や全事業所で利用者高齢化、障害

の重度化への対応を行い、より多くの利用者受入れを進めた。また、新型コロナウイルス感染防止への取組みを進め、安心して施設利用をしてもらえる対応をした。法人設立 40 周年に向けた記念行事については事務局を中心にして枠組み作りを検討した。

2. サービス管理

- (1) 職員の人権意識やサービス意識の向上に向け、虐待防止委員会、サービス向上委員会などの活動により、職員の支援状況の実態把握、接遇向上への取組み、人権擁護意識の醸成を図った。
- (2) 苦情解決第三者委員会、サービス点検調整委員会を開催し、委員からの助言等を利用者サービスの向上に生かした。また、品川区サービス向上研究会の活動に積極的に参加し、同会作成の品川区版サービス自己評価等を活用した。
- (3) 施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長（高齢者施設・障害者施設）を引き続き配置、分野ごとの担当者会議を実施し、課題共有を図り、経営会議で情報共有、進行管理を行った。
- (4) 令和2年度に引き続き法人全体を上げて感染防止に取り組んだ。感染拡大時期には入所施設を中心に法人内においても感染が広がったが、各医療機関や関係所管の協力と適切なアドバイスで罹患者の重篤化は防げた。感染時の対応を振り返り今後の感染防止対策に活かしていきたい。

引き続き、利用者の皆様には、行事中止、外出制限、面会制限等活動に制限を課す結果となった。できる範囲内で代替えのメニューを用意し、少しでも要望に応えられるよう工夫した。

3. 人事・労務管理

- (1) 職員採用に関しては、年間を通じ、応募者に合わせ採用試験を随時実施（年間48回実施）した。コロナの影響で直接の面接が困難な場合があったが、就職説明会や採用面接をオンラインで実施する等工夫し対応した。
- (2) 職員の健康・衛生管理の充実に向け、安全衛生委員会が中心となって働きやすい職場づくりに取り組んだ。人材部会と連携し全国健康保険協会の健康企業宣言を申請し、職員の健康増進に向けた取り組みを行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染防止の対応として、継続して時差出勤、通勤経路変更、在宅勤務を奨励し、各施設単位で時限的に実施した。また、コロナ感染や疑いに関連する職務免除の適応など臨機に対応したり、ワクチン接種について関係調整や職員への情報提供を行った。

4. ガバナンス

円滑な組織運営の為、下記の会議、委員会運営を適宜行った。

(1) 理事会、評議員会、監事監査

6月4日 監事監査 令和2年度事業報告・決算状況確認

6月 8日 理事会 令和2年度事業報告、決算、定時評議員会の招集

6月25日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、役員等の選任

6月25日 理事会 理事長及び常務理事の選定

9月17日 理事会 補正予算、規程改正、人事案件

10月25日 理事会 契約案件（文書開催）

11月 9日 監事監査 令和3年度中間事務監事監査

11月19日 理事会 中間事務監事監査報告、評議員会招集事項、規程制定等

1月25日 理事会 補正予算（文書開催）、規程制定

3月22日 理事会 令和4年度事業計画、当初予算、人事案件等・監事監査前には会計監査法人による往査を実施し、監事に報告した。

（2）経営会議

月1回、理事長が開催。経営方針を検討する場とし、重要案件の検討、毎回前月迄の稼働率および事業進行管理、経営分析等を行った。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

（3）施設長会

月2回開催。経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めた。また、感染防止の為、継続してオンラインでの会議参加も可能とした。

（4）防災管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

（5）安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催し、職場の安全衛生向上を進めた。オンライン開催が定着し感染防止、業務効率化を図られた。

（6）虐待防止委員会

法人全体で月に1回開催し、虐待防止に係る情報提供・共有を進めた。事業所単位ではそれぞれの状況に合わせ開催した。

（7）コンプライアンス委員会

今年度2回実施した。法人内の事業の法令遵守状況の検証、組織活動の適正化を進めた。

（8）リーダー会

法人内リーダーの全体調整、情報の共有化を目的に月一回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策のため集合会議は開けず、オンラインを活用し会議を進めた。

5. 研修

- （1）研修委員会により、人権意識の定着、モチベーションの向上、専門性の向上等で職員の資質向上を目指し研修内容を検討した。また、施設情報の発信方法としてSNSの活用が望まれており、SNSに関する研修も実施

した。

(2) 外部研修については多くの研修がオンライン研修へ切り替えられた。

(3) しなふく向上発表会・研修報告会の他、法人内研修にもオンラインを取り入れ、感染防止及び効率的な開催を意図し実施した。

6. 地域交流事業

地域交流事業として、10月に「しなふく紅葉フェスタ」、3月に「ボランティアの集い」を予定したが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。集合イベントの代替えとして、「心のつながりー地域とともに」を企画した。地域とのメッセージ交換は視点を変えたところで新しいつながりを持つ機会となった。

7. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。法令に基づき法人内各事業所において、毎月、避難、消火等の防災訓練を実施し、年に1回以上震災想定訓練を実施した。

品川区より災害時の福祉避難所協定の改定案が示された。法人内で情報共有を行い検討した。

8. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行し、職員向けに職員報「風よ〜」を発行した。

また、法人ホームページの充実を図るため地域福祉課を中心にホームページ検討委員会を開催し検討を行った。

令和3年度 法人研修事業報告

1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、介護・福祉業界はさらに職員採用が困難な状況が顕著な傾向が続いている。当法人においても人材確保、育成はもとより、「定着」が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。法人全体で人権擁護研修を実施、その他、新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また、同様の外部研修にも参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、外部研修については中止や規模縮小になることが多かった。定期的に研修委員会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策の観点からオンライン形式や規模を縮小して開催する等、試行錯誤しながら、新しい生活様式に沿った研修の在り方を検討し、実践した。

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上 発表会・研修 報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。また、法人代表として外部研修受講の職員が、他の職員に内容を共有する	全職員	令和4年 2月中 (オンライン形式)	全職員

(2) 階層別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成するとともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する	令和3年度採用職員および令和2年度中途採用の職員	令和3年3月22日(月)～3月25日(金)	22名
新任職員現況 報告会及び 新任職員研修	各事業所で職務の習得が進み、仕事を任されるようになってくる時期に同期職員と現状を確認する機会とする。 試用期間終了の時期に行う。	令和3年度採用職員および 令和2年度中途採用の職員	令和3年9月24日(金)	19名
初級職員研修	2・3年目を迎え後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用2, 3年目の 職員	令和3年7月9日(金)	33名
採用2年目職員 現況報告会	各事業所で職務の習得が進み、仕事を任されるようになってくる時期に同期職員と現状を確認する機会とする。 試用期間終了の時期に行う。	令和2年度中途採用の職員	令和3年9月24日(金)	18名
中級職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5, 6年目の 職員	令和3年10月 6日(水)	19名
特別上級 職員研修	10年間の経験を振り返り、将来への自己変革の契機とする。 研修企画を通じて、関係調整等全部をプロデュースする。	採用後10年目の 職員	令和3年4月～5月 (オンライン形式)	7名
リーダー初級・ 候補者 研修① (外部)	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者 及び リーダー昇任3年 以内の者	令和3年8月20日(金)	18名
リーダー初級・ 候補者 研修② (内部)	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者 及び リーダー昇任3年 以内の者	①令和3年5月28日(金) ②令和3年8月20日(金)	10名

管理職養成研修	管理監督者候補としての役割、意識を醸成し、育成を図る。	全リーダー職	令和3年11月5日（金）	20名
リーダー研修	自信をもって部下の育成や市道をできるよう、外部講師を招聘して実施する。	全リーダー職	令和4年1月10日（火） （オンライン形式）	35名
中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目標とする。	令和3年度中途採用の職員		
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようにする。（虐待防止も含む）	非常勤職員	令和3年10月15日（金）	4名
管理者研修	品川総合福祉センター管理者として、テーマに沿った内容を習得、共有することを目的とする	全管理職	令和3年11月11日（木）	18名

（３）技能研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新人が職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	・令和3年5月1日～20日 （各施設ごとに実施） ・令和3年5月14日 （金）	15名
救急法研修	対象者の支援や介護を行う場面に、緊急時に必要な動きをとれるよう学ぶことを目的とする	各事業所 指名職員	中止	
特別研修	①SNS活用研修 ②ハラスメント研修 職員より「学び」の要望として挙げた内容を実施する。	前年度、参加していない職員	①令和3年6月15日 （火） ②令和4年1月14日 （金）	①34名 ②22名

※介護技術研修は各事業所ごとに現認研修として行い、外部職員オープン参加とした。

（４）目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
人権擁護研修	法人全体で共有が必要な「権利擁護と人権」の演題で講演。人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	R3年11月26日（金） （集合及びオンライン形式）	全職員
福祉施設の看護師研修	健康支援室を中心に、各事業所看護師が専門職としての意見交換や情報共有をもとに業務の統一化を進める。	本部健康支援室 専任看護師及び 各事業所看護師		個人研修として 実施

（５）自己啓発・資格取得支援

- ・職員の資格取得を推進した。
- ・職員のスキルアップに向け専門機関、行政等が主催する研修に参加を推進した。

（６）その他

- ・関係機関の人権研修に積極的に参加し、参加者は必ず職場へ内容を周知した。
- ・各事業所の現任研修において利用者の権利擁護の検証を必須とした。
また虐待防止研修の実施を必須とした。
- ・介護プロフェッショナルのキャリア段位制度については継続検討とした。

令和3年度 地域福祉課事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、令和2年に引き続き地域交流事業をはじめ各種サークル活動も一部を除き中止となっているが、開催方法を工夫して実施した。外出できない利用者には、生活を楽しむことができるように、令和2年度に行った本部1階ロビーの装飾用の壁を有効活用し、月に1回季節の装飾を掲示し、しなふくのフोटスポットを定着させた。利用者だけでなく、ご家族、地域からの来館者にも、幅広く喜んでもらうことができた。

コロナ禍、例年通りの行事ができない中で、八潮地区の絆を確認し合う「心のつながり地域とともに2021」を企画し実施した。八潮自治会と関係機関と法人全事業所の利用者がメッセージ交換を行い、コロナ禍を共に乗り越える勇気や励ましを互いに得て、つながりを再確認できたことは、地域関係者からも好評をいただいた。

福祉教育・啓発では、中学生に対して、初めてZOOMでの講義を行ったが、対面でなくとも学校側が求めていることに臨機応変に対応する中で、障害者の理解を促進することができた。

また、広報活動の実施に努め、しなふくニュースの発行、ホームページのリニューアルに向けての検討のほか、SNSマニュアル検討委員会では、ホームページ上におけるソーシャルメディア利用管理規程、運用マニュアルを完成させた。

一方では、法人後援会の円滑な活動のために事務局としての役割を担った。

2. 事業内容

(1) 各種教室

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部を除き中止とした。

手話講座・手話舞踊は、会場を八潮在宅サービスセンターに変更して、感染予防を徹底して行った。緊急事態宣言発令時、感染者拡大傾向の月は、休講とした。

〈各種教室実績〉

事業名		実施回数	講師（ボランティア）	延人数	登録者数	実施曜日・時間
ル ク サ	絵画教室	中止	伊藤喜代美	0	13	第三日曜日 14:00～16:00
	生花教室	中止	山田繁子（休職）	0	8	第二日曜日 13:00～15:00
	手話サークル 手話舞踊	6	森 みつえ	88	33	第一日曜日 13:00～15:00
計		6		88	54	
令和3年度計		6		88	54	
令和2年度計		4		83	57	

(2) 地域交流事業

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「しなふく紅葉フェスタ」(令和3年10月24日(日)開催予定)は中止となったが、「心のつながり地域とともに2021」を企画開催した。

開催時期 メッセージ作成 令和3年 9月～10月

メッセージ交換 令和3年10月～11月

掲示期間 令和3年12月中

掲示場所 本部1階ロビー・風除室

内 容 コロナ禍、「心をひとつに今を共に乗り越えよう」と、法人全事業所の利用者から手作りの約50枚のメッセージを、八潮自治会と関係機関に配布。約半数のメッセージのお返事をいただき、館内に掲示。横断幕掲示、チラシ配・広報、メッセージ配布に訪問。本部ロビーの掲示装飾、ケーブルTV紹介。

② 《地域行事参加》

地域において開催予定の行事は、中止となった。
また、目黒街角クリスマスのイベントに参加した。

5月「八潮ファミリー運動会」中止

7月「八潮連合自治会主催：八潮まつり」中止

8月「八潮北地区避難所まつり」中止

9月「品川区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」中止

12月「品川区障害者週間：記念のつどい」中止

12月 目黒街角クリスマス「EASE」主催 作品販売・プチレーブパン販売

3月 八潮美化運動 中止

(3) 福祉啓発・教育

① 《こどものつどい》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

② 《青少年体験ボランティア2021》

品川ボランティアセンターの事業である、青少年体験ボランティア活動の受け入れに協力して行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一部日勤事業所のみで受け入れ実施。

地域福祉課では、福祉体験プログラムを企画。参加者の都合に合わせ短い期間で様々な福祉体験ができる内容を用意。点字体験、手話体験、車椅子体験、障害者の接し方の基本を学び、本部ロビー装飾を参加者で仕上げるプログラムを行った。

③ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

- 令和3年11月

品川区立八潮学園2年生の生活科見学「町たんけん」の受け入れ 10名

- 令和4年2月

品川区立大崎中学校7年生 福祉講座 76名対象 Zoom

④ 《ボランティア講座の実施》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

(5) 広報活動

〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 800部発行 No.147～No.151)
品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」の編集、発行を行った。

〈ボラボーラ〉(随時 400部発行)

平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。
内容は、お知らせ、ボランティア募集等。

〈ホームページ〉

- ・ホームページ検討委員会において、内容構成を検討、施設・業者との調整を行った。
- ・SNSマニュアル検討委員会において、ホームページおよびSNS利用管理規程、運用マニュアルの検討を行った。
- ・定期的な、お知らせページの更新を行い、本部ロビー装飾壁画を紹介した。

(6) 募金活動

- ・赤い羽根共同募金の街頭募金が中止になり、募金活動の一環としてミニバザーを行い売り上げと職員の協力により募金を行った。

(7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域行事・関係機関などに対して、地域交流の一環として協力。
綿あめ機、ポップコーン機、焼き鳥機、かき氷機、餅つきのセット、テント、椅子、長テーブル、音響装置、車椅子、他。

(8) 事務局活動

① 後援会事務局

- ・後援会役員との連絡調整
- ・幹事会、総会の開催
- ・会費、寄付金、募金箱などの会計処理
- ・後援会ニュース年2回発行
- ・その他必要な事務

② 連合家族会事務局

- ・連合家族会役員との連絡調整
- ・その他必要な事務

4. ボランティア

ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。

・《ボランティアのつどい》

新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止となった。(令和3年3月5日(土)開催予定は中止)

法人に登録している定期ボランティアに、近況報告を兼ねた感謝のお手紙を作成配布。

《ボランティア活動実績》

[注] 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの

新型コロナウイルス感染拡大予防の為活動を縮小及び活動中止

施 設	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
かえで荘	0	0	3	5	193	275
かもめ（身体）	0	0	0	0	71	101
かもめ（知的）	0	0	10	10	157	233
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	0	0	22	39	46	80
八潮在宅サービスセンター	26	49	41	151	274	699
大井在宅サービスセンター	60	303	108	373	226	676
中延特養	45	68	18	24	366	676
中延在宅サービスセンター	0	0	0	0	273	703
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉会館	127	215	102	170	204	311
八潮南特養	11	188	11	132	34	304
大井三丁目高齢者憩いの場	0	0	0	0	181	259
地域福祉課	57	127	67	118	253	296
八潮中央保育園	0	0	0	0	0	0
合 計	326	950	382	1022	2278	4613

令和3年度 かえで荘事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス感染症の予防に関しては、利用者のワクチン接種3回、職員の定期的なPCR検査を継続して実施した。また、基本的な感染対策を強化しながら、職員一丸となって、日々の観察をおこない、異変への早期発見、早期対応に努めた。しかし、3月に大きなクラスターが発生し、利用者と職員に多数の陽性者がでた。多くの利用者は感染が判明しても入院することができず、施設の中で療養期間を過ごすこととなったが、重症化する方はいなかった。この間、保健所や東京都の感染対策チームの指導やサポートを頂きながら感染対応をした。これを機に感染力の強い感染症の対応策・課題を検証し、今後に活かしたい。

職員関係においては、介護士の新卒職員が2名配置され、利用者支援や余暇活動、委員会、研修等が充実できるよう計画を立てていた。しかし、年度前半から通常業務を離脱し、休職する職員が3月まで続く形となったため、日々の業務にも配置する職員が不足し、超過勤務で調整することが少なくなかった。

稼働率については、4月のみ目標稼働率に達したが、以降右肩下がり徐々に低迷した。コロナ禍で申込者数が減っていることもあるが、例年より入所調整に時間を要した。その間に入院、退所が相次ぎ、常に入所の人数より退所の人数が上回っていた。1月よりショートステイの空床利用を積極的に受け入れて改善に努めたが振るわなかった。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

＜要介護度＞ (令和4年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合 計
利用者数	3	7	23	28	15	76

・平均要介護度 3.6 (令和2年度 3.5) (※一時入所含む)

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が87%を占める。

＜年齢＞ (令和4年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	1	0	0	1	5	4	0	11
女	0	3	0	8	21	32	1	65
計	1	3	0	9	26	36	1	76

・平均年齢 88.8歳 (令和2年度 88.8歳)

・最低年齢 66歳 最高年齢 100歳

(2) 稼働率

令和・平成 年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
利用率 (%)	92.9	98.0	96.3

3. 援助計画

(1) 機能回復訓練

機能訓練指導員としてあん摩マッサージ指圧師を配置。利用者の機能状態の評価を行い、多職種協働で個別機能訓練計画を作成、機能訓練を実施した。ショートステイを含む全利用者を対象に集団体操を再開したが、利用者の機能レベルにばらつきがあり、フロアーによって参加者が難しい状況であった。定着には、利用者のニーズをあらためて調整し、体操の難易度や各フロアーに合わせた実施方法の工夫が必要であることがわかった。

＜機能回復訓練実施状況＞ (令和4年3月31日現在 単位：延人数)

令和・平成・年度		令和3年度	令和2年度	令和元年度
内	歩行訓練	134	163	99
	立位バランス	28	145	112
	関節可動域訓練	151	0	0
	上半身機能訓練	832	832	845
	下半身機能訓練等	81	5	5
容	生活リハビリ	15, 256	17, 257	17, 743
合 計		16, 482	18, 402	18, 804

(2) 余暇活動

サークルのほとんどがボランティア主導のものであったため、ボランティア不在によりサークル活動がほとんど出来なかった。そのため、個別ケアとしての対応や集団体操を職員主導でおこなった。

料理サークルは管理栄養士が中心となり少人数制で実施、毎回好評であった。

(3) 行事

① 月例行事

定例でおこなっていた近隣へのショッピングセンターへの外出や外食、遠出などがコロナの関係でほとんど実施できなかった。しかし、代行で買い物をおこなったり、緑道公園や屋上など近隣への散歩をしたり、食の楽しみである出前食等は不期的に開催した。その他、お楽しみ会は屋内で楽しめることを職員が計画し月ごとに実施した。

② 年間行事

コロナウィルス感染症のまん延防止のため、年間の行事のほとんどを縮小したり、内容を変更したりしたが、想定していたよりもできないことの方が多かった。しかし、利用者の生活に潤いをと考えながら工夫をして行事をおこなった。

(4) 利用者の健康管理

昨年度に比べると、大幅に入院者(延べ人数)、入院延べ日数が上回っている。比較的新しい入居者の方が早々に入院するケースが今年度は多い傾向にある。食事が摂れないなど、健康と直結する部分でもあるが、技術や知識などだけでは解決できないケアの限界もあり、そのまま入院し施設に戻れない方も少なかつたのが今年度の特徴であった。

<入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
令和3年度	103	1,450	14.78
令和2年度	80	1,160	14.5
令和元年度	113	1,483	13.12

(5) 食事

多職種間での情報、データ共有または会議を行い、栄養ケアマネジメントと利用者の栄養管理、給食管理に努めた。また、職員の現任研修で食中毒予防と食事介助の実技演習についての研修を実施した。施設での余暇支援の一環、食の楽しみとして、コロナ禍でも季節を感じていただけるよう、園芸サークルで育てた野菜を用いて料理サークルを実施した。感染拡大時は、委託業者を含め給食業者と連携し、感染拡大予防とマンパワー不足を解消するべく弁当対応等実施した。今後の感染拡大時の為の課題抽出を行うことが出来た。

<食事形態の状況> (令和4年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらきざみ食	経管栄養	一般食
令和3年度末	10	21	21	6	12
令和2年度末	13	26	26	7	9
令和元年度末	11	26	28	7	10

4. 会議・研修

(1) 研修

毎月1回現任研修を開催し、法令上必要な研修や知識の習得を目的とした研修を中心に行った。外部研修では、コロナウィルス感染症の関係でオンライン研修が増えて、同じ研修を複数名で参加できたというメリットもあったが、他施設の交流機会は減っている。

(2) 会議

感染防止のため職員会議については、1回当りの時間を短縮したり、人数制限したり、回数の調整をしたりと不定期開催となった。職員の休職やコロナ感染の状況もあり、予定通りの開催が難しかった。

(3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質の向上を目的に、サービス向上委員会・事故防止委員会・身体拘束適正化委員会・感染症対策委員会・褥瘡予防委員会と、介護の基本である排泄、入浴、口腔、食事に関する担当を組み合わせ開催日を固定して実施した。3年度も2ヶ月に1回の定期開催とした。委員会活動が活発化し、職員の意識が少しずつ変わり、組織としての体制づくりが一步進んだ。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウイルス感染症のまん防止のため、家族との面会を制限せざるを得ない状況となった。かえで荘においてはできるだけ直接面会の機会を設けたが、緊急事態宣言の期間と感染者発生時期を除き、予約にてリモート面会を中心に開催した。

<面会状況>

令和・平成・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
面会者件数	105件	99件	2,906件
面会延べ人員	283人	115人	3,497人

(2) ボランティア

今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、ほとんどのボランティア活動を中止している。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	その他	2	53
理美容	0	0	令和3年度計	2	53
園芸	0	0	令和2年度計	2	10
行事	0	0	令和元年度計	37	264

(3) 実習生

新卒採用を視野に入れながら、実習生を積極的に受け入れる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、受け入れ制限をした結果、学校側の実習希望時期とすり合わず、今年度は1校も受け入れられなかった。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業をはじめ、ほとんどの行事が中止となった。また、地域の保育園等との交流もほぼできなかった。コロナが落ち着いたら、八潮北・東大井保育園との定期交流を再開し、共生社会教育の一端を担っていきたい。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

送迎については、昨年4月から入退所時の家族付き添い不要を徐々に進めてきた。また、少数だが定期利用者が定着しリピート利用が続いている。後半は特養の空床を積極的に活用し利用者数を伸ばした。今年度は目標稼働率が達成できた。

(2) 利用実績

令和・平成・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ日数	1,760日	1,508日	1,584日

(3) 稼働率

令和・平成・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
利用率(%)	80.99%	69.2%	72.2%

7. 防災

コロナのまん延時期には、規模を縮小したり、内容を変更したり、工夫しておこなっていたが、感染リスクが高まってからは中止することもあった。全体としては、防災計画に基づき必要な訓練の実施はできた。今後BCPを見直し充実させていきたい。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、リクライニング、車椅子、センサー等
備品購入関係(介護関係)	テーブル、乾燥機、洗濯機、センサーベットなど

令和3年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

新規採用職員（新卒）4名を配置し新年度を迎えた。退職者は無かったが経験のある職員が法人内異動となり職員の若返りが進んでいる。職員の欠員は無いものの、産前産後休暇、育児休暇の取得により一時的に派遣職員を導入した。1.2年目の職員が合わせて8名（常勤職員の3割）となったため、職員教育にも力を入れている。特に事業所内で行う現任研修に重きを置き実施している。

目標稼働率は収支状況を考慮し96%に設定した。入所調整の段階から、フロアリーダー、生活相談員等を中心として多職種で連携し、スムーズに調整が進み目標を達成することが出来た。収支面では新型コロナウイルス感染症予防対策として必要となる衛生用品（消耗品）の購入や設備関係修繕費、介護用ベッドの購入があり支出が多くなった。

看取り介護については、事業所の日常のケアとして定着している。今年度は17名の利用者に対応した。管理医の協力により、状態の低下が見られ始めた際は早めにインフォームドコンセントを設定し状況の説明を丁寧に行い、終末期の対応についてご家族等で考える時間を作り、希望された方に看取りケアを実施している。入所時に看取り期にある利用者についても、ご家族等との連携が可能であれば看取り対応で受け入れている。

ケアの向上を目指し「利用者本位の時間軸で生活を送る」をテーマに取り組みを行った。本人が望む生活を実現させるため、ご利用者のアセスメントを行い、多職種協働で考え実行に移した。この取り組みについては品川福祉保健従事者実践・研究発表会で発表し、最優秀賞を受賞することができた。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和4年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計
利用者数	0	5	24	30	11	8	78

・平均要介護度 3.7 (令和2年度 3.6)

利用者のうち要介護度3以上の利用者が92.9%を占める。

<年齢> (令和4年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	1	2	4	4	3	0	14
女	0	1	4	9	14	31	5	64
計	0	2	6	13	18	34	5	78

・平均年齢 89.2歳 (令和2年度 90.1歳)

・最低年齢 71歳 最高年齢 106歳

(2) 稼働率

平成(令和)・年度	3年度	2年度	1年度
稼働率 (%)	97.1	97.7	93.8

3. 援助計画

(1) 日課・週課

心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、個別ケアを意識したケアプランを立案しサービス提供へと繋げている。居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

(2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を発揮し、身体機能の維持向上を図るため自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。感染症対策によりリハビリ室の使用を控え、各フロアにて集団リハビリを実施している。

＜機能回復訓練実施状況＞

(単位：人)

平成(令和)・年度		3 年度	2 年度	1 年度
内 容	歩行訓練	1 5 7	2 0 2	2 2 7
	立位訓練	2 2 3	2 5 0	4 1 3
	端座位訓練	4 3	6 5	1 7 4
	温熱療法(極超短波・ホットパック)	4	1 3	6 6
	四肢体幹機能訓練	4 2 0	7 4 2	2, 2 1 4
	生活リハビリ	3 7, 4 2 9	3 7, 7 9 7	3 8, 5 3 0
	集団リハビリ	5 1 1	6 2 6	0
計		3 8, 7 8 7	3 9, 6 9 5	4 1, 6 2 4

(3) 余暇活動

感染症対策もあり活動内容が制限されてしまうため、事業所内での活動を充実させた。ホーム喫茶を充実させ、「喫茶」の概念を超え利用者の要望に合わせている。園芸サークルについては園芸療法研修会のスタッフと施設職員が協力し、直接的な接触を避ける方法で定期的の実施した。

(4) 行事

① 月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、各階単位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

② 年間行事

中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』『餅つき』は昨年と同様に館内行事として実施し、入所者と職員が共に楽しむ行事として開催し、大好評であった。

(5) 利用者の健康管理

施設内の感染症は発生せず、入院者も減少している。しかし、今年度の新入所者のうち、5名は1年未満でご逝去されている。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
3年度	67	1,076	16.1
2年度	70	1,008	14.4
1年度	109	1,433	13.1

(6) 食事

委託業者と連携し食事提供を行った。利用者には好評だったが、食材の調達についてはコスト面で厳しい状況となっている。食材の高騰により給食での提供が難しいメニューについては、個別にデリバリーで対応している。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種栄養補助食品等を活用し、可能な限り経口摂取を行っている。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ペースト食	極きざみ食	きざみ食	粗きざみ食	常食	経管栄養
3年度末	4	8	22	32	13	0
2年度末	12	8	20	28	5	2
1年度末	10	8	21	30	5	2

4. 会議・研修

(1) 研修

品川福祉カレッジや東京都主催の権利擁護研修等、各種の研修に参加した。オンライン形式の研修がメインとなっているが、パソコンの通信に慣れる機会にもなった。新人職員を対象として、社会人・介護職員としての基本事項を中心に、毎月の現任研修を実施した。

(2) 会議

サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、随時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、随時ケアを見直した。また、「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行った。

(3) 委員会活動

定例会議と連動して指針に基づき、事故防止、感染症予防、身体拘束廃止、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を随時開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

感染症の影響により、事業説明会、懇談会を中止している。入所者の近況を伝えるため、写真を用いた手紙（個人ごと）を定期的に送付している。

<面会状況>

平成(令和)・年度	3年度	2年度	1年度
面会延べ人員	850人	252人	4,946人

(2) ボランティア

新型コロナウイルスによる感染症対策としてボランティアの受け入れを休止したが、入所者と接触しない方法で園芸療法研修会のボランティアのみ活動している。

<ボランティア活動状況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	行事	0	0
余暇活動	0	0	その他	0	0
介護士業務補助	0	0	令和 3 年度計	8	6 7
傾 聴	0	0	令和 2 年度計	7 0	8 9 6
園 芸	8	6 7	平成 1 年度計	7 0	8

(3) 実習生

実人員 48 人（昨年度 23 人）、延べ日数は 477 日（昨年度 195 日）の実習生（介護福祉士・社会福祉士・栄養士・看護師等）を受け入れた（受入の 6 割は看護実習）。介護福祉士養成校の実習生（令和 3 年度卒業生）を令和 4 年度に採用の予定。

(4) 地域社会との交流の推進

感染症予防対策により、地域との交流事業は休止している。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員 10 名②居室 2 階（2 人部屋 1 室・個室 2 室）3 階（2 人部屋 1 室・個室 4 室）

(2) 稼働実績

平成(令和)・年度	3 年度	2 年度	1 年度
延べ日数	3, 0 8 9 日	3, 2 7 9 日	3, 3 2 9 日

(3) 稼働率

平成・年度	3 年度	2 年度	1 年度
稼働率 (%)	8 4. 7	8 9. 8	9 1. 0

申し込み数は平均 25・6 件と目立った変化はなかったが、感染症の影響でキャンセルが生じた。緊急利用については出来る限り受入を行うことが定着している。

7. 防災

防災計画に基づき、毎月 1 回の防災訓練及び震災想定訓練を実施した。近隣住民との合同防災訓練は中止している。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

建物設備、備品類の経年劣化が目立ち、修繕や購入を進めている。

修繕・改修関係	排煙機工事（区工事）、冷温水発生器関係修理
環境整備関係	感染予防用ビニールシート
備品購入関係	介護用ベッド、リクライニング車椅子

令和 3 年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

令和 3 年度も目標稼働率の確保に向けて、週 1 回の入所調整打ち合わせ、ケアの質の向上、早期対応等による入院者の削減に努めた。新規入所は 24 名(昨年度 23 名)で退所者 24 名と同数であり、入院延べ日数も 1,399 日(昨年度 1,679 日)と減少したが、新型コロナウイルス感染症の発生のため新規入所を進められない期間があり、長期入院も含む空床が多く発生し、7 月からの定員増もあり稼働率は目標に届かなかった。

新型コロナウイルスの感染予防については、引き続き消毒や換気等に努め、職員の健康管理についても、東京都による週 1 回の PCR 検査の実施、ワクチン接種の推進等をしてきたが、8 月中旬～9 月には利用者 3 名職員 3 名、1 月下旬より 2 月にかけて利用者 23 名、職員 9 名の集団感染があった。そのためショートステイの休止、新規入所受け入れ中止としたため稼働率に影響を及ぼした。また、時期的に感染のピークと重なり、入院もなかなかできず、通常の救急対応も搬送までに時間がかかり、遠方まで搬送されるケースがあった。職員は感染リスクの中で業務を継続し、心身の疲弊が続いている。

今年度予定していた特養の増員(81 名→89 名)、ショートステイ減員(19 名→11 名)については、7 月より実施した。

ICT の導入については、年度当初にプロジェクトチームを立ち上げ機器の選定を行い、「眠りスキャン」「眠りスキャン eye」の見守りシステムの導入、「ほのぼの NEXT」への記録システムの変更、ナースコール、センサー通知、記録の入力ができる iPhone の導入を実施した。10 月から 12 月に導入工事、1 月から 2 月に職員への使用説明、研修の予定だったが、「ほのぼの NEXT」については新型コロナウイルス感染症の発生のため使用開始が令和 4 年度 4 月にずれ込んだ。見守りシステムも使用は開始したが、効果の検証ができるまでは至っていない。

職員状況については、介護士、看護師ともに欠員があり、派遣職員を活用した。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度>

(令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合 計
利用者数	0	9	27	29	16	81

- ・平均要介護度 3.6 (令和元年度 3.5) (※一時利用含む)
- ・全利用者のうち要介護度 3 以上の利用者が 88.8%を占める。

<年齢>

(令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人)

性別年齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	3	2	3	5	4	5	0	22
女	0	3	3	6	14	30	3	59
計	3	5	6	11	18	35	3	81

- ・平均年齢 87.5 歳 (令和 2 年度 89.6 歳) ・最低年齢 53 歳 ・最高年齢 102 歳

(2) 稼働率 令和3年7月1日より定員89名に変更

令和・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率 (%)	89.7	92.6	93.1

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を発揮できるよう支援しているが、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなっている。また、入浴では機械浴対応が多く、介助の負担も大きくなっている。フロア間の連携で業務の効率化をしていきたかったが、コロナ禍という事もありできなかった。

(2) 機能回復訓練

- ① 感染症対策として、距離を取りながら行える集団体操での訓練を昨年度に引き続き実施した。集団での体操が難しい利用者や、ストレッチ・関節可動域訓練等が必要な利用者は、フェースシールド装着の上、換気を行い、訓練時間を10分程度に制限しながら訓練を実施した。
- ② 活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動（集団での体操を含む）、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に、平行棒内や廊下での歩行訓練、片脚立位訓練等を状態に応じて実施した。
- ③ ベッドで過ごす時間の長い方は四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓練を行った。また、筋緊張を緩和し、拘縮進行と褥瘡予防の為に臥床姿勢や座位姿勢の調整（ポジショニング）を実施した。
- ④ 動作の介助（特に起居・移乗動作）では介護士と機能訓練指導員が協働で評価を行った。「身体機能を維持するための介助」を取り組み続け、繰り返し行うことで動作の再獲得や筋力の維持に効果が認められた。また、できていた動作が難しくなった方へは、本人と介助者の双方に負担の少ない介助方法を検討し、安全に行える方法を実施している。
- ⑤ ショートステイでのリハビリの強化を図り、食事前の体操を今年度も年68回、延べ参加人数331人実施した。コロナウイルス感染症の流行により居室で過ごす方も増え、ショートステイを閉鎖した期間もあり、昨年度に比べて回数、参加人数共に減少している。

<機能回復訓練実施状況>

(延人数)

令和・年度		令和3年度	令和2年度	令和元年度
内容	歩行訓練	22	26	22
	立位バランス訓練	40	89	103
	上肢機能訓練	767	1,114	1,131
	下肢機能訓練	1,163	1,326	1,681
	体幹機能訓練	526	778	791
計		2,518	3,333	3,728

(3) 余暇活動

新型コロナウイルス感染症予防のため外出は制限されたが、近隣の散歩は回数は少ないものの実施した。保育園等との交流は新型コロナウイルス感染状況により実施していない。

(4) 行事

施設内では、フロアをまたがない形で七夕や節分等の季節の行事や、花の植え込み、書初め等を実施した。各フロアから余暇担当を選出し、計画、実施に向けて取り組むことが定着した。

(5) 利用者の健康管理

総括リーダーを要として、看護師、医師、介護士が連携して対応した。新型コロナウイルス感染症により施設内療養となるケースが多くあり、嘱託医と連携して対応した。また、医療のひっ迫によりすぐに入院ができなかったり、救急搬送までに時間がかかることがあった。入院理由としては誤嚥性肺炎が多いが、昨年度16名、延257日から、13名、171日に減少している。看取り対応は4名行い、1名は継続中。その都度家族との話し合い、嘱託医、病院との連携を行った。

<入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
令和3年度	92	1,399	15.2
令和2年度	96	1,679	17.5
令和元年度	100	1,264	12.6

(6) 食事

献立は旬の食材や季節メニューを取り入れ、月に一度の選択食も継続して実施した。また、高齢者で課題となりやすい便秘や皮膚トラブル予防のため、喫食率を考慮した食材選びや献立作成をした。献立はマンネリ化の指摘があり、新メニューの取り入れや、味の変化等工夫した。摂取量の低下がみられる利用者には、食事量の調整及び栄養補助食品の付加を行い、栄養状態低下の防止に努めた。

<食事形態の状況>

(実人数:人)

	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
令和3年度末	12	26	20	7	8	3
令和2年度末	13	21	28	6	10	3
令和元年度末	15	13	27	11	5	5

4. 会議・研修

(1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。リモートの実施が増え、現任研修は感染状況により、書面開催または集合開催とした。感染症対策については4回シュミレーションを全常勤職員が行っている。

(2) 会議・委員会活動

役職者連絡会、委員会活動（事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止）等のほか、随時ケースカンファレンスを開催した。会議、委員会活動については、感染状況により参加人数を絞り込んだ。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウイルスの感染予防のため、直接面会は10月～12月の期間のみで、それ以外の月はリモート面会を実施した。直接面会、リモート面会ともに実施できる回数、人数等に制限があったが、家族の協力のもと継続できた。

<面会・外出状況>

令和・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
面会延べ人員	117人	534人	4,903人

(2) ボランティア

新型コロナウイルス感染症予防の為、一般のボランティアの受け入れは中止し、非常勤職員のボランティア活動のみとした。

<活動状況>

(延べ人数)

令和・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ボランティア	216人	142人	312人

(3) 実習生

実人員1人(昨年度1人)、延べ日数は10日(昨年度10日)の実習生(栄養士)を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

新型コロナウイルス感染症のため、体育館は施設内で導線が交わるため年間を通じて貸出中止したが、グラウンドは6月21日から再開している。地域の総合防災訓練、美化運動も中止となっている。

6. 短期入所生活介護事業(ショートステイ)

(1) 実施概要 ・定員11名 居室 1階多床室(4人) 2部屋・個室3部屋

7月より定員19名から11名に変更した。新型コロナ感染症の発生のため、休止日数年85日、キャンセル668日が発生し、目標稼働率に到達できなかった。

(2) 利用実績

令和・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ日数	2,703日	4,215日	4,702日

(3) 稼働率

令和・年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率(%)	56.6	60.9	67.6

7. 防災

防災センター(ビル管理業者に委託)と連携し、毎月1回フロアを跨がない形で、放送、連絡訓練・避難誘導・消火活動等の防災訓練を複合施設として実施した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等(開設11年経過)

修繕・改修関係	汚物除去機、食洗器機等厨房設備、機械浴、衣類乾燥機等
備品購入関係	ノートパソコン、処置カート、液晶テレビ買い替え、洗濯機、乾燥機買い替え、車いす、特浴機充電器等

令和3年度 グループホーム八潮南事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス感染症の流行の中で、「共に生活する」ことを意識した活動が思うようにできなかったが、買い物については職員主体で実施し、利用者にはメニューを決めてもらい、食材を切る・調理するところを行ってもらったことを継続した。また、外出を自粛しなければならない状況の中で、筋力低下防止のため室内でできる体操やプロジェクターを使って映画鑑賞をしたり、季節の行事や誕生日会等室内で楽しめることを実践した。

感染症については日々の消毒や換気等の他、職員は週1回のPCR検査を継続して行った他ワクチン接種を積極的に進めた。職員2名の罹患はあったが、利用者の罹患はなかった。体調不調のある利用者の対応については、嘱託医、訪問看護ステーションと連携をとって対応した。

今年度は特養と協働でICTの導入を行った。年度当初にプロジェクトチームを立ち上げ機器の選定を行い、「眠りスキャン」「眠りスキャン eye」の見守りシステムの導入、「ほのぼのNEXT」への記録システムの変更、ナースコール、センサー通知、記録の入力ができるiPhoneの導入を実施した。10月から12月に導入工事、1月から2月に職員への使用説明、研修の予定だったが、「ほのぼのNEXT」については新型コロナウイルス感染症の発生のため使用開始が令和4年度4月にずれ込んだ。見守りシステムも使用は開始したが、効果の検証ができるまでは至っていない。

事故については、転倒・転落が58件、離設が8件服薬関係が23件、発生した。その他、ひやりはっと報告を含む事故報告は74件であった。事故報告についてはその都度ユニット中心に検証をし、情報の共有と再発防止を図った。

入居者状況としては、令和3年度は3名の退去、2名の入居があった。退居理由について1名がグループホーム内でのご逝去、1名は特養入所、もう1名はS状結腸裂孔で入院後逝去した。

稼働率については、骨折等の外傷による入院はなく、疾病によるもののみに、入院延べ日数も昨年度18名370日から今年度6名53日に減少し、目標稼働率には僅かに及ばなかったが、前年度よりも改善した。

職員関係においては、10月に管理者が退職し特養と兼務になっている。介護士は新型コロナの罹患や濃厚接触者として自宅待機を余儀なくされる等があったが、全員で業務をカバーしあいながら乗り切った。

(1) 利用者状況

<要介護度>

(令和4年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合 計
利用者数	3	6	6	1	1	17

・平均要介護度 2.47 (令和2年度 2.72)

<年齢> (令和4年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	0	1	2	2	0	5
女	0	1	2	3	3	3	0	12
計	0	1	2	4	5	5	0	17

・平均年齢 85.5 歳（令和2年度 84.5 歳）・最低年齢 73 歳・最高年齢 96 歳

(2) 稼働率

年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率 (%)	97.7	92.4	94.0

2. 援助計画

(1) 日課・週課

新型コロナウイルス感染症の関係で、昨年度に引き続き、買い物などは職員主体で行ったが、メニュー決めや調理を中心に行ってもらった。また、散歩以外の外出も控えたことで、室内で行える体操等を取り入れ、筋力の維持に努めた。地域との交流は新型コロナウイルス感染症の関係で実施していない。

(2) 行事

お花見、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの季節行事に力をいれて実施した。特に今年度は恒例の梅ジュースづくりの他に、梅干しづくりにもチャレンジし、利用者から梅干しづくりのノウハウが職員に伝授され、一から順に一緒に作り上げた。

(3) 利用者の健康管理

新型コロナウイルス感染症の関係で、嘱託医（内科・精神科医）や訪問看護と連携して健康管理を行った。発熱等新型コロナ感染症が疑われる場合は、嘱託医の判断で、適宜 PCR 検査を実施したが、利用者の罹患はなかった。訪問歯科は継続している。

(4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、調理、片付け等を、入居者・職員と共に行っている。買い物は新型コロナウイルス感染症の関係で職員が実施している。外出ができない分、入居者の誕生日祝いには力を入れ、店屋物等も活用し、ユニット全体で楽しんだ。また、身体の状態に応じて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食べやすく工夫して提供している。

3. 会議・研修

(1) 研修

新型コロナウイルス感染症の関係で、法人主催の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都認知症介護実践者研修等に参加した。人権研修や認知症については、リモート研修を利用して参加している。施設内研修としては、月1回の虐待予防委員会やサービス向上委員会の活動の中で、動画コンテンツを活用した研修を行った。

全職員が業務の合間に動画を見て、気づきや学んだこと等を書面報告している。法人全体の課題として「不適切なケア」の改善に努め、全員で「認知症の人の心を知り、『語り出し』を支える」を読み、各自でレポート提出を行った。

(2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、サービス向上委員会として認知症ケアについて取り組んだ。身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会も定期的に実施した。新型コロナウイルス感染症の感染者が多い時期については、人数を制限して実施している。また、定例の運営推進会議を奇数月に計6回開催しているが、新型コロナウイルス感染症の関係で、作成資料を関係者に郵送することで開催とし、グループホームの生活状況を知らせている。

4. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウイルス感染症の関係で、事業説明会は中止し、資料郵送にて事業経過報告などを行った。また、面会については、窓越しでの面会に協力していただいている。運営推進会議においても集まっての開催は中止し、関係者へ資料郵送にて開催とした。

(2) ボランティア

新型コロナウイルス感染症の関係で、中止している。

(3) 実習生

実人員 2人（昨年度4人）、延べ日数 10日（昨年度15日）の実習生（介護福祉士）を受け入れた。新型コロナウイルス感染症の関係で、事前にPCR検査を受けてもらい、実習期間中は自身の行動記録をとってもらいながら実習を行ってもらっている。

(4) 地域社会との交流の推進

新型コロナウイルス感染症の関係で、団地内の行事も中止となり、散歩以外の外出は控えてもらった。

5. 防災

新型コロナウイルス感染症の関係で、防災センター（ビル管理会社に委託）と連携し、特養やユニットをまたがないような形で、毎月1回の防災訓練を実施した。

6. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設11年経過）

修繕・改修関係	洗濯乾燥機
備品購入関係	洗濯乾燥機買い替え

令和3年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 一人一人に合わせたサービス提供を行うため、ご家族や関係機関との連携に力を入れた。必要とされるケアの内容は様々であるが、出来る限り個別性を重視し対応した。関係機関との連携や職員のアセスメント力向上により、ケアに必要な利用者の情報を得ることができ、その情報を職員で共有することにより、事故の発生を防ぐ事へも繋がっている。
- ② 認知症対応型通所介護事業でも、利用者に合わせたサービス提供を行っている。少人数の事業であるため、きめ細やかな対応が可能となり、通所介護事業（一般デイサービス）からの移行や、介護支援専門員からの紹介も徐々に増えている。また、ご利用者やご家族から利用増回の希望も増えている。
- ③ 介護予防・日常生活支援総合事業については、制限等は設けず積極的に受け入れる方針で居宅介護支援事業所へアナウンスしていたが、利用割合が減少している。自立度の高い総合事業対象者にとってコロナ禍では、一日型の事業所より、目的に合わせた短時間型の事業所の方が利用しやすい傾向となっている。
- ④ 感染症対策を十分に行い、感染者発生時も濃厚接触とならないよう留意した。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) R4.3.31 現在

	令和3年度			令和2年度			令和1年度		
	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症
合 計	5,577	1,893	2,200	5,279	2,048	1,803	5,211	2,642	1,902
実 施 日 数	308	308	308	308	308	308	309	309	309
1日当り利用者数	18.1	6.1	7.1	17.1	6.6	5.9	16.9	8.6	6.2
稼 働 率	74.6%		59.5%	73.2%		48.8%	78.3%		51.3%

・登録者数内訳（要介護度別・人）

R4.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	3年度			2年度			1年度			3年度			2年度			1年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	0	1	1	1	3	4	0	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	4	8	12	1	9	10	2	11	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	5	11	16	8	14	22	7	12	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	18	23	9	22	31	8	11	19	1	5	6	2	8	10	0	7	7
要介護2	2	9	11	7	13	20	3	8	11	0	2	2	0	2	2	1	1	2
要介護3	5	6	11	4	14	18	3	10	13	3	3	6	1	5	6	0	3	3
要介護4	1	6	7	3	6	9	0	3	3	0	2	2	0	3	3	0	2	2
要介護5	0	3	3	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	3	3	0	3	3
合 計	22	62	84	33	82	115	23	59	82	4	14	18	3	21	24	1	16	17

- ・ 目標稼働率を一般デイは 81%、認知症デイを 60%としたが達成できなかった。しかし、認知症デイについては徐々に稼働率を上げ、前年度比 10.7%向上した。

＊定員：一般デイ 35 名、認知症対応型デイ 12 名

- ・ 要介護度の高い新規利用者が増加している。
- ・ 利用終結の理由として、ご逝去の方が多く見られる他、老人保健施設利用後の在宅復帰の減少が目立っている。

(2) 介護保険外サービス（訪問給食/通所サービス）

訪問給食サービス、通所サービス（入浴・給食）共に該当者はいない。

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5 月 3 日（月）～5 月 7 日（金）	126
くつろぎ祭り	10 月 9 日（土）	24
外出行事	中止	
ゆず湯	12 月 20 日（月）～12 月 24（金）	122
Xmas 会	12 月 18 日（土）～12 月 24（金）	192
餅つき	12 月 25 日（土）	25
新年会	1 月 4 日（火）～1 月 10 日（月）	193
豆まき大会	2 月 3 日（火）	30

・ 外出行事は今年度も中止している。利用者の楽しみを増やすため、行事以外にイベント的な活動を増やしている（調理活動、季節のイベント）。

・ くつろぎ祭り、餅つきについては、施設行事として実施した。職員と共にゆっくり楽しむことができ、利用者には大好評であった。

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノート等を活用し家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。

活動状況については、写真を多用し利用者の状況が詳しく伝わる事を意識した。

- (2) ボランティアの受入れは休止している。
- (3) 祭礼行事や防災訓練等、地域の方との交流は中止している。
- (4) 地域開放事業としての「くつろぎ祭り」「もちつき」は中止している。

5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

3 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	2 年	1 年
実施回数	10	9	11	12	13	11	13	13	11	12	12	12	139	112	132
登録利用者数	48	48	48	48	48	48	50	50	48	47	47	47	577	327	424
延べ利用回数	135	124	138	159	165	141	184	184	157	170	159	169	1,885	1,116	1,360

令和３年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 新型コロナウイルス感染拡大により、デイサービスを新規利用希望者の激減と、長期欠席者や利用回数の多い方の入院・施設入所・ご逝去等が影響を及ぼし、昨年度比で1.3%減少し、目標稼働率を大きく下回った。
- ② 新規利用や増回、変則的な利用希望等にもできるだけ添うようにし、ケアマネージャーとの連携にも努めた。
- ③ 八潮団地の特性として、エレベーターの無い住居が多く、階段の昇降が難しくなった場合には施設入所になってしまうケースが多い。八潮地域外の隣接のエリアの事業所に営業をかけている。また、総合事業の利用者を積極的に受け入れた。
- ④ 介護予防事業である「マシンでトレーニング」については、申し込みは通常の2倍～3倍以上の申し込みがあり好評で抽選とした。
- ⑤ リハビリについては理学療法士により実施できている。リハビリ利用されている方の身体機能の維持が図られている。

2. 利用者状況（１）介護保険サービス

年間利用者数及び稼働率（一般、総合事業・予防、対象外） R4.3.31 現在

	令和３年度			令和２年度			令和元年度		
	一般	総合	対象外	一般	予防	対象外	一般	予防	対象外
男性	1,339	378	0	1,196	424	0	1,454	493	0
女性	2,361	1,486	0	2,606	1,370	0	3,801	1312	0
合計	3,700	1,864	0	3,802	1,794	0	5,255	1,805	0
実施日数	305	305	0	305	305	0	305	305	0
1日の人数	12.1	6.1	0	12.7	5.9	0	17.2	5.9	0
稼働率	55.5			56.8			71.2		

登録者数内訳（要介護度別）

R4.3.31 現在

	一般デイサービス								
	令和３年度			令和２年度			令和元年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	2	4	6	2	5	7	2	2	4
要支援１	2	3	5	1	6	7	1	5	6
要支援２	0	16	16	2	12	14	2	11	13
要介護１	2	7	9	3	8	11	6	9	15
要介護２	2	2	4	1	6	7	3	3	6
要介護３	9	2	11	8	6	16	6	5	11
要介護４	0	2	2	0	2	2	0	3	3
要介護５	2	3	5	1	4	5	1	3	4
合 計	19	39	58	18	49	67	21	41	62

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食） R4.3.31 現在

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
食数	538	813	1,280
実施日数	257	307	307
1日あたりの利用者数	2.1	2.7	4.2

3. 援助経過

新型コロナウイルス感染拡大により例年実施していた外出行事については全て中止となった。

変わり湯として、5月のしょうぶ湯。12月のゆず湯は季節を感じていただくことを目的に例年通り実施。また、8月にはレモン湯を行い利用者の方々には大変好評であった。

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) 介護者教室は新型コロナウイルス感染予防のため自粛指示により中止となった。
- (3) ボランティアは、新型コロナウイルス感染予防のため受け入れを中止したが、一時期新規感染者が減少した際に再開したが再び中止となった。
- (4) 地域開放事業として、「カフェぽっかぽか」を7月・2月、「クリスマスコンサート」を12月に実施予定であったが、全て新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

5. 介護予防事業

「マシンでトレーニング」の利用者は、コロナウイルス感染防止により12名定員のところ8名で実施。年間では延べ301人の利用となっている。

6. 防災

毎月支援センターと合同で防災訓練を実施した。年2回「サンかもめ」と、例年3月実施の「八潮わかくさ荘」も含めた総合訓練は新型コロナウイルスの感染予防のため実施できず。

7. 設備関係

冷暖房ファンコイルユニット故障により1基交換。

17年間使用した送迎用車両が老朽化と故障により交換。

令和3年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 一般通所介護では、転倒予防という目的に特化した新しいプログラム「転倒予防エクササイズ」を日中活動の中心として実施し、近隣の事業所との差別化を図ることにより、サービスの質向上及び新規利用者獲得による稼働率は昨年度比で3.4%向上した。
- ② 趣味活動中心のプログラムから、楽しんで行えるリハビリ体操に変更し、本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- ③ 理学療法士の配置日数を増やし、個別のリハビリプログラムを始めることが出来た。
- ④ 認知症軽度者プログラムについては、職員が研修を受講した後、職員間で情報を共有した。当センターでは認知症対応型通所介護があり、通所介護とのシームレスな移行が可能であり、認知症の方もそうでない方に対しても、その方が持っている可能性に対して、一番適切なサービスとケアを実践した。
- ⑤ 認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。稼働率に関しては昨年度比で12%減少している。
- ⑥ 稼働率向上のためリーフレットの刷新をするとともに、新規職員確保も兼ねて事業内容宣伝のため、インターネットを活用したFacebookやInstagramへの事業内容写真の掲載を継続した。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) R4.3.31 現在

	令和3年度			令和2年度			令和元年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総計	5,257	1,407	1,334	5,119	2,117	1,673	5,116	1,383	1,698
実施日数	308	308	308	308	308	308	309	309	309
1日当りの利用者数	17.0	4.5	3.4	16.7	6.9	5.4	16.6	4.4	5.5
稼働率(%)	66.5%		36.1%	63.1%		48.1%	65.1%		46.1%

・登録者数内訳(要介護度別)

R4.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応型デイサービス								
	3年度			2年度			元年度			3年度			2年度			元年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要支援1	0	3	3	0	3	3	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	9	7	16	5	8	13	4	8	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1
要介護1	12	21	33	11	18	29	11	23	34	1	1	2	1	5	6	1	2	3
要介護2	8	13	22	9	11	20	8	8	16	0	0	0	0	3	3	0	4	4
要介護3	2	10	12	5	13	18	5	5	10	0	3	3	2	3	5	0	3	3

要介護4	2	2	4	3	4	7	3	2	5	0	0	0	0	3	3	1	2	3
要介護5	1	1	2	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	2	3	1	1	2
事業対象者	1	6	7	2	4	6	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請中				6	8	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	35	63	98	41	70	111	32	56	88	1	5	6	5	18	23	3	13	16

- ・契約者人数は減っているが、週複数回利用の方が増えている。稼働率が昨年比で一般デイが3.4%増、認知症デイが12%減少した。
- ・一般デイは減、総合事業は若干増、認知対応型デイは大幅に減少している。
- ・年度途中で事業方針を変更し、午後の活動のゲームを廃止し、集団体操プログラムである「転倒予防エクササイズ」を中心に実施し、稼働率が上がってきている。

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月3日(月)～5月8日(土)	116名
ゆず湯	12月20日(月)～12月25日(土)	124名
節分	2月3日(木)	26名

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話、連絡ノート等を活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るように努めた。
- (2) 利用中の御家族への事業者説明会した。
- (3) ボランティアは、新型コロナウイルス感染予防のため受け入れを中止としたが、一時期新規感染者が減少した際に再開している。

5. 介護予防事業

参加者の低迷から、事業を休止している。

6. 防災

- (1) 毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。
- (2) 町会との防災協定を結んでいるため、合同でミニポンプ消火訓練を行った。

7. 設備関係

- ・建物や備品等の老朽化に対しては、トイレの手すり交換を行った

令和3年度 在宅介護支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能 ア) 総合的な相談窓口・権利擁護機能 イ) 介護予防マネジメント ウ) 包括的・継続的マネジメント 等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) (地域型) 在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との関係向上を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築などのほか、防災関係の情報提供や、緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに係る連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。
- (5) 「新型コロナワクチン接種支援業務」「災害時避難行動要支援者個別支援計画の作成業務」など、区からの依頼による臨時の業務を行った。

2. 地域づくり等

- (1) コロナ禍にあって、地域づくりは大きな制限がありほとんど実施が出来ていない状況であった。また、認知症サポーター養成講座は、初めてリモートで行うなど、年間2回ほど行えたが、認知症サポーターレベルアップ事業は行えていない。
- (2) 5月の災害対策基本法の改正にともない、非常時の体制についてモデルケース(大井、八潮)として、町会および自治会との災害時の要援護者への対応および話し合いを区担当者と共に行った。

3. 支援経過(支援実績)

支援内容

	令和3年度	延 件 数			
		八潮	中延	大井	大井第二
相談内容	利用者宅訪問	2, 1 3 8	2, 4 9 9	1, 6 6 2	2, 0 4 3
	計画書配布	7 3 9	9 6 4	6 4 7	5 8 7
	利用票配布	1, 7 0 6	1, 7 6 9	1, 1 7 5	1, 5 6 0
	担当者会議	5 0 3	7 3 3	6 2 8	5 3 9
	担当者照会	1 2 9	1 8 6	6 8 8	1 6 0

モニタリング	3, 4 8 7	4, 4 5 4	2, 5 5 5	3, 2 0 9
医療連携	7 8	4 9	1 2	3
退院退所面談	6	2	1 0	0
通院時連携	0	0	0	2
連絡・調整	2, 3 1 1	5, 3 5 7	2, 6 3 4	2, 5 3 5
ターミナル訪問	0	1	3	0
通院時情報連携	0	2	3	0
合 計	1 0, 6 9 6	1 6, 0 1 6	1 0, 0 1 7	1 0, 6 3 8

夜間、休日相談

	件数		
	夜間	休日	合計
八潮	2 7	0	2 7
中延	3	5	8
大井	1	1	2
大井第二	4	3	7

給付管理件数 (令和3年度)

	件数		
	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	1, 751	986	768
中延	1, 832	1, 312	1, 113
大井	1, 086	605	555
大井第二	1, 527	696	637

令和3年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

1. 総括

利用者の重度化に伴い医療機関等と連携を強化したことで、療養型病院への移行や特別養護老人ホームへ入所するケースが多かった。

また、年度後半より利用者の居住環境と職員の勤務体制等の見直しを行い、日中の職員不足を解消すると共に利用者の保安強化を推進し事故防止を推進した。施設整備面では、各階に防犯カメラを設置し、施設内で発生した事象等に関して要因分析を行い、対策を講じる事が出来た。

コロナ禍で外出を行う楽しみが減少したため、園庭を活用し少人数でバーベキュー企画等を実施するなど、様々な楽しみ企画を実施した。

新型コロナウイルスのワクチン接種は、大井中央病院の協力を得て、2月下旬に3回目まで終了したが、3月に入り新型コロナウイルス感染症の発生が職員と利用者で確認され、クラスターが発生した。東京都の感染予防対策チームや訪問医療機関の協力にて利用者の重度化を防ぎ、短期間で収束することが出来た。

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に努めた。

短期入所は、入所時の健康観察を重視し、感染対策をした上でサービスを継続した。対応の困難なケースは、支援センター等と連携してできる限り受け入れた。

2. 利用者状況(令和4年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	女性3名 在宅より入所	3名
退所者	女性1名 療養型・1名 逝去 男性1名 療養型・1名 特養	4名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	6	14	4	24
女性	0	0	2	7	9	8	26
合計	0	0	2	13	23	12	50

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	2	5	5	8	2	1	0	24
女性	0	3	3	9	5	3	2	1	26
合計	1	5	8	14	13	5	3	1	50

・平均年齢 男性 56.3 歳 女性 58.3 歳 全体 57.4 歳 (令和2年度 58.0 歳)

(4) 稼働率

令和年度	3年度	2年度	元年度
利用率(%)			
施設入所	95.2	95.1	92.7
生活介護	83.2	88.5	81.8

(5) 関係機関

(単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	台東	八王子	合計
42	3	1	1	1	1	1	50

3. 支援経過

(1) 支援全般

個別支援計画に基づき、利用者個別の自立した生活を目指し支援した。特にもの作りなどの活動で個性を発揮していくことや、生活の中での楽しみを拡大していくように支援した。また、さつきへの通所など、個人の力をより発揮できるように支援を進めた。職員1人が利用者複数の担当制としたため、中途退職が発生した際に再調整が必要となった。高齢化や身体状況の変化により通院や入院等、医療的な対応等も多く、多職種で連携した。健康管理とともに、日常の過ごし方や活動について見直しを推進した。

(2) 生活介護日中活動

①課題別活動(小グループ)

引き続きリサイクル、調理、創作活動(ものづくり)を行なった。リサイクル活動は、感染症予防としてペットボトル回収等難しく、園庭の掃除や牛乳パック切り等を行った。調理活動は、ボランティアの受け入れを中止し、職員2名で利用者からの意見を元に軽食やデザートを調理した。創作活動(ものづくり)は、季節に応じた装飾や花や自然の造形物を立体的な作品を作成し、行事などの飾りに生かし、利用者主体となって行事を行った。藍染めを実施し、各家族へハンカチの贈り物をした。

②課題別活動(個人)

各利用者の好みの活動(買い物・創作・喫茶・調理・ビデオ等)を設定し、職員とマンツーマンでかかわる時間とし、利用者の希望によって職員2名でドライブを行う事をした。限られた時間であるが利用者にとって楽しみであり、社会生活を支援する重要な活動として継続した。

③全体活動

5月：園庭でハンバーガーを食べながら新人歓迎会 8月：納涼会 3月：送別会を実施。その他バーベキューを園庭等で企画し、屋外活動を多くの利用者が参加し楽しんだ。

④他のサービスを利用

サンかもめ、第一しいのき学園(生活介護)、さつき(就労継続支援B型サービス)へ日中に通所した。通所時に不穏になり定時の送迎車に乗ることができない方もいたが、通所先事業所と連携し、本人の意思を尊重し対応した。通所先の各種行事等にも、本人の意向により参加した。

利用人数

(単位:人)

	さつき	第一しいのき学園	サンかもめ	合計
男性	1	0	0	1
女性	5	1	3	9

(3) 施設入所支援

散歩や、近隣の外出の他、季節に応じた生活行事やレクリエーションなどを企画実施した。食事形態、排泄の支援等について、加齢や状態の変化等に対応できるように、方法を検討し実施した。入浴は、夜間入浴を中止し、体調変化への対応が迅速に行えるよう日中入浴へ変更した。

(4) サークル活動 (単位:人)

サークル名	実施回数(年間)	参加人数(延)
コーラス	0 回	0
生花	11 回	109
茶道	8 回	93

(5) 行事 (単位:人)

行事名	実施日	内容	参加人数
新任歓迎会	5/4	新年度顔合わせ。	51
納涼会	8/21	焼きそば、かき氷、他	51
バイキング食	年 3 回	希望献立に因る会食	48
バーベキュー	10～12 月	園庭で小グループ開催	51
クリスマス食事会	12/19	イベントに合わせた食事	50
送別会	3/30	年度末納会	50

新型コロナウイルス感染症予防に伴い多くの行事が実施出来なかった。

(6) 健康管理

看護師 2 名体制を引き続き推進し、医療ケアを十分に行える環境を整えた。定期健康診断、インフルエンザ予防接種等を実施し、健康の維持と疾病の早期発見に努めた。インフルエンザ、ノロウイルスの感染症は発生していない。新型コロナウイルス対策として 3 回目のワクチン接種の推進と外出、通所、家族の面会等の自粛を行うも 3 月に新型コロナウイルスの感染拡大が発生した。利用者の状態の変化は、主に看護師、支援員が連携して状況を把握し、精神科医師に適宜相談した。特に家族への説明等も丁寧に行なった。

通院・入院・嘱託医受診。

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	15	10	6	12	5	7	9	11	10	12	6	4	107
入院	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	4
受診	17	12	12	17	3	13	9	46	46	17	37	29	258

(7) 給食

希望献立、状態に応じた形態で食事提供した。給食会議にて献立の内容や課題を検討し、事業者と調整を行なった。毎週水曜日に選択食を実施した他、バイキング食(年 3 回)は、6 月「メキシコ料理」8 月「ハワイ料理」10 月「世界のハロウィン」等のテーマで実施した。普段食べることがない食材もあり、好評だった。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食)

(単位:人)

減塩食	制限食 1300Kcal			制限食 1400 Kcal		制限食 1600 Kcal	
0	0			4		4	
常食	粗キザミ食	角食	キザミ食	なめらか食	ペースト食	個別対応食	
26	7	5	10	0	2	0	

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、利用者ヒヤリングは実施出来なかった。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者ヒヤリングを受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、文書の開催を実施した。

(11) サービス向上委員会

「利用者の人権、生活を守るためのチェックリスト」を定期的実施し、自己評価を行った。同時に業務の振り返りを行ない、意見交換をした。

(12) 虐待防止委員会

定期的に虐待防止委員会を開催し、利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指した。また、身体拘束（ベッド柵や拘束ミトン）が必要か検討し、可能な限り拘束を減らすことが出来、職員の意識向上が出来た。

4. 研修・会議

(1) 研修 法人研修計画に基づき、人権研修その他研修に参加した。

(2) 会議 職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議を開催

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウイルス感染予防の為、感染状況に応じて1階多目的室での面会及びリモート面会を推進し、また定期的にご本人状況報告のお手紙を送付した。

(2) 地域交流

新型コロナウイルス感染予防の為、実施出来なかった。

(3) ボランティアの協力

年度途中から新型コロナウイルス感染予防の為、受け入れを中止にした。

6. 短期入所事業(定員3名)

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービスの向上に努めた。

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	8	7	8	9	7	7	8	11	12	10	13	7	107
女性	5	5	5	5	4	5	5	6	6	5	5	2	58
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	12	13	14	1 ¹	12	13	17	18	15	18	9	165
利用日数	117	96	92	106	79	86	80	93	95	91	91	26	1,052
年間平均稼働率 令和3年度				96.1%			年間平均稼働率 令和2年度				66.9%		

7. 防災

法人の防災計画に従い防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を実施した。
品川区防災課より、福祉避難所の備蓄物資を預かり保管している。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	防犯カメラ
-----------	-------

令和3年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

1. 総括

新型コロナウイルス感染症に職員が4月5月3月に罹患することがあり、利用者のPCR検査を実施した。結果、利用者の感染は無かった。また、館内の施設で罹患者が発生した際には、出勤した職員は勤務前に抗原検査を実施してから支援に入ることとし、感染予防を強化した。外出・外泊・面会は、引き続き制限を設け利用者と家族にも協力要請した。直接面会ができない時期は、ICT機器を導入しリモート面会を実施した。広報活動に力を入れ、利用者の様子を毎月発信した。また、新型コロナウイルスワクチン接種は、大井中央病院の協力を得て、3回目が終了した。利用者が食堂内の環境をより快適に過ごせるよう大型テレビを整備した。

生活介護では、旅行会社とコンタクトを取り、オンラインツアーを実施し参加した利用者から好評の声が上がった。生産活動では、バザーの開催が中止となり、販売の機会が減少したため、館内で販売の機会を開催した。

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に努めた。

また、支援センターの依頼に対し、緊急利用に柔軟的な受け入れを実施した。他区からの利用も引き続きあり、ニーズに応えた。

2. 利用者状況（令和4年3月31日現在）

（1）入退所状況（単位：人）

	性別及び事由			合計
入所者	女性	1名	病院より入所	1名
退所者	女性	1名	療養型病院	1名

（2）障害区分（単位：人）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	4	5	6	10	25
女性	0	0	4	4	7	8	23
合計	0	0	8	9	13	18	48

（3）年齢別（単位：人）

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	1	4	7	6	3	3	25
女性	0	2	3	9	5	3	1	23
合計	1	3	7	16	11	6	4	48

・平均年齢 男性 58.5歳 女性 58.0歳 全体 58.3歳（令和2年度 58.4歳）

（4）稼働率

令和年度		3年度	2年度	元年度
利用率（%）	施設入所	95.2	95.1	92.7
	生活介護	83.2	88.5	81.8

（5）関係機関（単位：人）

品川	中野	足立	江戸川	江東	町田	合計
43	1	1	1	1	1	48

3. 支援経過

(1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年 2 回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行は、個別支援の時間を活用し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

(2) 生活介護日中活動

①生産活動

能力、適性に応じて 2 つのグループに編成し、工賃を支給した。軽作業の受注は変動あるも継続しており、創作作業は縫製やビーズ関連の作業等の作成を手掛けた。

参加人数

(単位:人)

	軽作業	創作	合計
男性	10	1	11
女性	5	6	11
合計	15	7	22

②療護活動

講師の指導によるヨガビリーや音楽セラピーを実施することが出来なかったが、職員主導によるリハビリや園芸で育てた野菜等の収穫と創作活動を積極的に行った。

③他サービスの利用

同一法人内の他施設が実施するサービスを利用した。

参加人数

(単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B 型さつき	3	3	6
サンかもめ	0	1	1

(3) 施設入所支援

感染予防から年度当初に計画していた行事や余暇支援の実施が行えない事もあったが、新しい生活様式を取り入れ、潤いのある生活を目指し支援した。

昨年までの外出支援等が行えず、利用者のニーズに応えるべくデリバリー企画を多く実施した。

(4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	0	0	勉強会	10	221	カラオケ	16	281
料理	0	0	言語	8	175	お出かけ便	0	0
園芸	8	23	パソコン	0	0	デリバリー	74	116

(5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
お花見	4/3・4	館内から花見を楽しむ	32 名

しょうぶ湯	5/5	健康と長寿を願い入浴した	全員
七夕	7/7	七夕飾り他	全員
お楽しみ企画	5/15・7/18 9/5・11/7	施設にしながら様々なイベントを楽しむ	30名
納涼会	8/10	夏の雰囲気と夏らしい映画を楽しむ	30名
花火大会	9/7	駐車場内で花火鑑賞を楽しむ	32名
バイキング食事会	6/20・9/23 11/28・2/13	テーマに沿った会食を楽しむ	164名
映画観賞会	同上	要望の映画を鑑賞する	60名
そば打ち	11/15	新そばの時期に手打ち蕎麦作りを体験する	25名
オンラインツアー	7・8・9月	旅行気分を味わう	20名
クリスマス懇親会	12/13	会食を楽しむ	42名
柚子湯	12/22・24	風邪を引かずに冬を越せるよう願い入浴した	全員
新年会	1/4	新年顔合わせを行い新年の抱負を語り合う	全員
初詣	1/1～3	館内にかもめ神社を設置し参拝する	20名
節分	2/3	豆まきを実施し、健康を祈る	26名
映画観賞会	5/5・9/23・2/14	要望の映画を鑑賞する	各16名

新型コロナウイルス感染症に伴い、外出等を伴う多くの行事が出来なかったため、施設内で工夫を行い新たな企画を実施した。

(6) 健康管理

嘱託医による受診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は47名実施した。インフルエンザや胃腸炎症状の罹患者は0名であった。新型コロナウイルスワクチン接種は、3回目まではほぼ全員の利用者が終了した。重度高齢化に伴い医療機関と連携し、病院へ移行した方がいた。

通院・入院・嘱託医受診状況(単位:人)

日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	4	2	4	4	4	6	9	8	7	3	3	4	5
入院	0	0	1	1	3	0	1	1	1	0	1	1	10
受診	67	66	68	65	66	67	64	66	67	66	66	65	793

(7) 給食

月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のワンプレート式バイキング食事会を企画した。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食) (単位:人)

減塩食	制限食 1300Kcal			制限食 1400 Kcal		制限食 1600 Kcal	
9	1			4		3	
常食	粗キザミ食	角食		キザミ食	なめらか食	ペースト食	個別対応食
20	7	9		9	0	3	2

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、利用者ヒヤリングは実施出来なかった。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

感染予防のため文書開催となった。

(11) サービス向上委員会

「サービス・支援の統一化」「リスク管理 感染症対策と事故予防」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待防止」のテーマとし、サービスの向上と課題解決に取り組んだ。

(12) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の前半に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の人権意識を高めてきた。

4. 研修・会議

(1) 研修

外部研修として東京都・全国社会福祉協議会・品川区社会福祉協議会等の主催の研修は、リモート研修にて参加した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、役職会議、給食会議、生活会議、生産活動会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

事業説明会は感染予防の観点から開催することが出来なかった。各家族へ施設から情報発信を積極的に行った。面会は、直接面会が行えない期間は、リモート面会を推奨し実施した。

(2) 地域交流

区内の多くの各イベントが中止になった。生産活動の作品販売を1階ロビーで実施をした。クリスマスイベント1か所のみ職員が参加した。

(3) ボランティアの協力

新型コロナウイルス感染予防の為、受け入れを中止にした。

6. 短期入所事業(定員2名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	3	2	3	4	5	3	5	6	6	3	6	7	53
女性	6	5	5	5	6	5	5	6	6	6	5	6	66
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9	7	8	9	11	8	10	12	12	9	11	13	119
利用日数	52	45	57	57	51	45	65	69	72	53	48	80	694
年間平均稼働率 令和3年度 95.1%							年間平均稼働率 2年度 112.9%						

7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を行った。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	大型テレビ
-----------	-------

令和3年度 サンかもめ事業報告

1. 総括

引き続き新型コロナウイルス感染予防を進めつつ、日中活動の内容を検討、拡大してきた。昨年度から再開した地域貢献に向けた地域清掃、当年度から試行した利用者ととともに準備を進めるカフェタイムなど、楽しみながら社会体験が進む内容を検討してきた。また土曜日の開所日を設定しドライブと非日常的な食事の機会提供を実施した。年度末2か月は通所元の入所施設で新型コロナウイルス感染が広がり、利用率が大きく低下した。最終的に当年度も多人数が集結する保護者会等は中止とし、家族へは連絡文書、写真を多用した施設だよりで事業の様子を伝えた。レクリエーション（ダンス・歌）の指導ボランティアの来所も見送った。

当年度から給食業務をベストフードサービス㈱に委託、綿密な連携体制を整え、温冷配膳車を導入、食事の質的向上を目指した。また玄関の開口部拡大を主目的に玄関の改修を実施、また床の補修等環境整備を進めた。

2. 利用者状況・稼働率(定員30人) 《令和4年3月31日現在》

(1) 入退所状況

	性別及び事由		合計
入所者	女性 2名	他障害者施設から	2名
退所者	女性 1名	法人内特養ホームへ入所	1名

(2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	1	8	5	3	17
女性	0	1	1	6	4	5	17
合計	0	1	2	14	9	8	34

(3) 年齢構成 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	5	7	2	0	2	1		17
女性	4	9	1	2	1			17
合計	9	16	3	2	3	1		33

(4) 稼働率 (年間平均)

年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率(%)	80.3	69.8	86.4

3. 支援経過

個別支援計画に沿い音楽・リハビリテーション・手芸・紙漉き・散歩などの日中活動や外出活動を通して利用者個々の自己実現に向けた支援を心がけた。また、リサイクル活動、作品展出品等利用者と地域をつなぐ活動に力を入れた。

(1) 日中活動による収益（円）＊令和3年3月31日現在

作業	資源回収	リサイクル報奨金	合計
収入	980	25,380	26,360

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
外出活動	感染防止のため中止、土曜日のドライブを実施	3回
地域参加行事	地域行事は感染防止のため中止	0回
レクリエーション	ダンス、歌（中止）、調理、創作、スポーツ大会、季節行事（夏祭り他）クリスマス忘年会 納会	24回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断を年1回実施、インフルエンザ予防接種、新型コロナウイルスワクチン接種を実施した。

(4) 給食

サンかもデイ（誕生日リクエスト食：33回）、選択メニュー（12回）、を実施した。また、必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

29名が送迎サービスを利用した。（内6名が車椅子用リフトを使用）。

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
7名	205日	841時間	410回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議（半年毎）、給食会議毎月1回を開催し、外部研修（福祉カレッジ等）、虐待防止研修、法人階層別研修、法人人権擁護研修等に参加した。（研修はリモート実施が中心）

5. 家族・地域支援（ボランティア・実習生受け入れ）

(1) 保護者会、保護者参加行事（クリスマス忘年会）は未実施。

(2) 福祉関係実習生3名、定期ボラ（歌、ダンス指導等）は休止。

6. 防災

施設防災訓練（避難誘導等）12回（内地震想定1回）

7. 施設管理・環境整備他

玄関扉更新、ホール床、静養室床張替改修実施

令和3年度 品川区立心身障害者福祉会館生活介護事業報告

1. 総括

個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援の充実を図った。また作品作りに力を入れ、個人の作品や共同制作の作品等を作り、作品展に出展した。また摂食指導医や作業療法士・理学療法士との連携強化を継続したことにより、職員の摂食支援や作業療法・理学療法への理解が更に深まり、日々の支援への意識の向上が見られた。

支援方針としては、障害者相談支援センターと連携した個別支援と、利用者の希望・意向を尊重する支援を継続することとした。また、利用者の障害程度の重度化、高齢化への対応として、内科検診を月4回と、協力医療機関を総合病院とし、医療体制の強化を継続した。

職員配置を増員し、余暇支援の充実を図り、新型コロナウイルス対策を行いながら、季節の行事や健康診断を実施した。新型コロナウイルスの影響で、計画をしていた療吸引の研修が中止となったが、医療的ケアの利用者を受け入れるために必要な備品を購入し、受け入れ態勢を整備した。利用者支援の質の向上のため、強度行動障害者支援の研修に参加し、職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

2. 利用者状況(令和4年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	女性1名 港特別支援学校より入所 男性2名 在宅より入所	3名
退所者	女性1名 施設入所 女性1名 在宅生活 男性1名 ご逝去	3名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	5	4	10	15	34
女性	0	1	5	3	2	4	15
合計	0	1	10	7	12	19	49

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	10	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	0	10	10	8	5	1	0	0	34
女性	1	3	5	4	1	0	1	0	15
合計	1	13	15	12	6	1	1	0	49

・平均年齢 男性 35.2 歳 女性 37.3 歳 全体 35.9 歳 (令和2年度 37.2 歳)

(4) 稼働率

令和年度		3 年度	2 年度	元年度
利用率 (%)	生活介護	74.3	70.2	78.3

3. 支援経過

①体温や血圧等、利用者の健康状態の把握を進め、個別によりきめ細かく配慮した。

また新型コロナウイルスへの感染防止対応を徹底した。

- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施した。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。また、生産活動のプログラムとしてメモ帳作りを実施した。
- ⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スヌーズレン等）に重点をおき、実施した。

4. 理学療法 (PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

・訓練実施回数 年 48 回

5. 作業療法 (OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等の向上に向けた訓練を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

・訓練実施回数 年 36 回

6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定、音楽を楽しむ時間を作り、支援の充実を図った。

・実施回数 年 24 回

7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、家族、摂食指導医、栄養士、給食業務委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、サービスの質の向上を図った。

・実施回数 年 12 回

8. 送迎サービス（令和4年3月31日現在）

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。

・利用人数 37 名／50 名 全登録者中（全員がほぼ往復利用）

9. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月1回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。今年度は、「あなたが感じた他者の不適切ケアや不快な行為気づきシート」から、課題となっている呼称についての取り組みを行った。また「品川区施設サービス向上委員会作成のセルフチェック」を実施した。その中で、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

令和3年度 品川区立心身障害者福祉会館機能訓練事業報告

1. 総括

機能訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、近隣区（大田区、目黒区、港区）や在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、さらに、送迎サービスと訪問型訓練のサービスを継続し、利用者増を図った。

利用日が祝日の時は、振替え利用を促し、稼働率向上に努めた。また、特別支援学校卒業後の利用推進に向け学校に働きかけ、実習生の受入れが進むように準備を進めたが、利用には結びつかなかった。訓練内容としては、見学・面接等で1人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラムを作り、実効的な内容を提供した。

当年度中に品川区と協議を進め、今年度で生活訓練事業を廃止し、令和4年度から機能訓練事業に統合し、定員を12名に変更し、事業運営する事となった。

2. 利用者状況(令和4年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	女性1名・男性5名 復職、再就職 男性2名 体力向上や生活の自立	8名
退所者	女性1名・男性1名 就労支援事業所へ移行 男性2名 在宅生活 男性1名 施設入所	5名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	合計
男性	7	0	0	0	0	0	7
女性	1	0	0	0	0	0	1
合計	8	0	0	0	0	0	8

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	0	2	2	1	2	0	0	0	7
女性	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1	2	2	1	2	0	0	0	8

・平均年齢 男性 48.1歳 女性 25.0歳 全体 45.3歳 (令和2年度 53.3歳)

(4) 稼働率

令和年度		3年度	2年度	元年度
利用率(%)	機能訓練	50.2	33.9	29.8

3. 支援経過

①体力維持や向上に向け、理学療法士の指導による自主トレーニングプログラム（エル

ゴメーター・筋力トレーニング等)を作成、訓練を自己管理できるよう指導・助言を行った。

- ②就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・ピッキング他）等に取り組む事で適性の自覚を導き、改善方法を見出すことで就労意欲を喚起し、また職業訓練センター等との連携を強化し、就労移行をサポートした。
- ③外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。また、余暇活動でも外出訓練を取り入れ、社会生活支援につなげた。
- ④送迎サービスと訪問型訓練を継続し、サービスの充実を図った。

4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に自主訓練メニューを作成した。

5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、利用者の様子を見ながら、個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行なった。

令和3年度 品川区立心身障害者福祉会館生活訓練事業報告

1. 総括

生活訓練の目的・機能を明確化し、常に事業の準備を整えていたが、利用者が居なかった。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、区内の訪問看護事業所や在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼したが、利用者が居なかった。

また、特別支援学校卒業後の利用施設となるように学校に働きかけ、実習生の受入れを目指したが見学のみで、利用には結びつかなかった。

訓練内容としては、見学・面接等で1人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からプログラムを作り、実効的な内容の準備をしていたが、利用者が居なかった。

当年度中に品川区と協議を進め、今年度で生活訓練事業を廃止し、令和4年度から機能訓練事業に統合し、定員を12名に変更し、事業運営する事となった。

令和3年度品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告

1. 総括

令和3年度も新型コロナウイルスの感染状況や利用者の意向に合わせながら訪問や電話、オンライン等の方法で相談業務を進めた。

職員の育成については、リーダーを中心に職員同士が相談し合い、意見交換できる職場環境作りに努めた。また、相談員としての利用者対応について「自己評価、他者評価」を行うことで自分自身を振り返る機会を設けた。

法人内の障害者相談支援事業所4か所で月1回、合同の会議を開催し、情報共有したり、ケースを通して意見交換する場を設けながら、法人内の相談支援事業所の在り方や関わり方について模索しながら次年度に繋げた。

職員の業務管理については、各自の意識が変わってきたことによって超過勤務時間等の大幅な増加は見られていないが、個人によって偏りが見られた。

新規事業所への移行については、対象者にご案内し可能な限り進めているが児童のケースが増加している為、事業所としての担当ケース数は数年前と変化は見られていない。

2. 実施事業

(1) 障害者対象の総合相談、障害児者福祉サービスの利用援助について

- ① 各種の福祉情報を提供した。
- ② 各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
- ③ サービス利用計画書、障害児支援利用計画書を作成、サービス調整、モニタリングを行った。
- ④ サービス調整会議に参加した。
- ⑤ 障害者の緊急時に対応した。
- ⑥ 区内障害児者関係事業所との連携を図った。
- ⑦ 品川区障害者福祉課と連携し利用者の生活を総合的に支援した。
- ⑧ 障害区分の認定調査を実施した。

(2) 社会資源を活用するための支援

- ① 各種施設・関係機関等の紹介を行った。
- ② 障害者が外出する際の支援を行った。
- ③ 障害者に対しての住宅の紹介を行った。
- ④ 外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
- ⑤ 障害者の自主グループ等の情報を提供した。

- (3) 社会で生活するための能力を高める支援を行った。
- (4) ピアカウンセリング
完全個別相談、事前予約制に変更し、予約が入った日のみの開催とした。昨年同様2名の相談員での実施となった。
- (5) 訪問リハビリ相談
在宅の重度の身体障害者を対象に、車椅子・補装具・リハビリテーションに関して理学療法士による相談日を設け、助言指導を行った。
- (6) 関係機関とのネットワーク構築を目指し、行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等と連携を図った。
- (7) 自立支援協議会へ参加した。
- (8) 入浴サービス
区の巡回入浴の窓口として家庭での入浴が困難な重度の障害者の方々へ巡回入浴を派遣した。
- (9) 高次脳機能障害者相談
評価、復職、退院後の生活等について、専門の作業療法士による相談支援を実施した。学校等の関係機関を含めたカンファレンスにも参加した。
- (10) その他
「新型コロナワクチン接種支援業務」「災害時避難行動要支援者個別支援計画の作成業務」など、区からの依頼による臨時の業務を行った。

3. 会議・研修

- ・品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会に参加
- ・東京都障害程度区分認定調査員研修（東京都福祉保健局）
- ・小児の高次脳機能障害に関する研修会（心身障害者福祉センター）

4. 実習生の受け入れ

- ・東洋大学 1名

5. 資料：相談支援事業内容集計(障害者)

①相談者内訳（人 ※障害別は延人数）

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
1,012	368	56	668	45	12	49	22

②調査件数（件）

認定区分調査 (新規・更新・変更)	計画相談 (新規・更新・モニタ)
101	639

③支援方法（件）

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
598	169	25	905	20	38	2,016	231	4,002

6. 資料：相談支援事業内容集計(障害児)

①相談者内訳（人 ※障害別は延人数）

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
232	8	8	101	1	118	1	0

②計画相談件数（件）

計画相談 (新規・更新・モニタ)
181

③相談内容内訳

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
72	48	1	113	0	8	131	55	428

令和3年度品川区中延、大井第二、八潮障害者計画相談支援事業所事業報告

1. 総括

令和3年10月より八潮在宅支援センター内に、法人3カ所目の障害者計画相談支援事業所を開設、運営を開始した。八潮の開所に合わせて各事業所の相談員を変更し、リーダーが全体を把握し、それぞれの事業所の職員が連携を取りながら事業を進めていく体制を作るために様々な方法を試行した。

中延はケースの動きに合わせて新規や移行ケースを受けることで一定数を確保しながら順調に運営することができている。大井第二については、担当地域に対象ケースが少ない為、区の所管課に現状を報告しながら進めている。また、八潮については拠点相談支援事業所からの移行を順次進めると共に、新規のケースも受けながら徐々にケース数を増やしている。

区内に予定していた6カ所の障害者計画相談支援事業所が開設した為、令和4年度以降、高齢者施策との連携推進に向けて、障害者計画相談支援事業所が担う役割について、地域の現状に併せながら改めて整理していく必要がある。

2. 会議・研修

- ・品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会
- ・自立支援協議会 相談支援部会
- ・在支地区ケア会議、定例会
- ・介護支援専門員連絡協議会主催の研修 他

3. 資料：相談支援事業内容集計

①中延

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタ)
274	1313	124

②大井第二

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタ)
146	510	85

③八潮 (R3.10～R4.3)

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタ)
37	370	5

令和3年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

1. 総括

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、各種教室、講習会については、参加人数を制限し感染防止対策を行いながら開講した。また、夜間の手話講習会については中止とし、代わりに「体験講座」「フォローアップ講座」を開催した。その他、手話通訳者の現任研修や懇談会等についてはオンラインを取り入れる等、開催方法を変更しながら実施した。

また、各種教室や意思疎通支援事業の業務の標準化と職員育成の為、業務マニュアルを作成し、次年度以降に活用できるように準備した。

2. 事業状況

(1) 相談・指導・訓練

- ①一般相談:窓口や電話により、新型コロナウイルス予防接種の申し込みを含め、各種相談に応じた。ボランティア活動希望等については各種事業やボランティア団体等を紹介し、ニーズとサービスを結び付けた。
- ②言葉のリハビリ教室:脳血管障害による失語症患者を主な対象にして、言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。

(2) 社会参加プログラム

〔創作教室、料理教室、音楽教室、ダンス教室、健康体操教室、等〕

地域で自立した生活を送れるように生活基盤作りのためのプログラムを組み、仲間との交流や趣味を持つことで生活の質が向上するように援助した。料理教室については感染防止の為、ボランティアとご利用者とマンツーマンで実施した。

(3) 障害者パソコン指導

障害者の情報通信技術(IT)の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。

(4) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者からの依頼により、手話通訳者・要約筆記者の派遣を行った。技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。感染状況をみながら人数を制限し、オンライン研修を取り入れることで予定通り実施することができた。

(5) ボランティア育成・啓発事業

〔講座、講習会:手話講習会、点字講習会、朗読講習会等〕

障害者の完全参加と平等という障害者福祉の理念が区民に深く定着するよう、ボランティア講習会を実施し、各種団体と連携をとりながら育成を行った。また、各種講習会を通して、障害者福祉の啓発に努めた。

昨年に引き続き中途失聴・難聴者向けの区民公開講座を開催し、次年度の事業内容について検討を行った。

法人の事業である「移動支援従業者養成研修」を9月に開催し、15名が研修を修了した。

(6) 交流室の運営

事業等に参加した方が気軽に立ち寄れるスペースとして交流室を運用した。季節に応じた行事等を企画し、利用者に親しまれ、様々な情報を得られるようなスペースとなるよう工夫した。

(7) 各種貸し出し事業

①部屋の貸し出し

障害者団体およびボランティア団体、地域住民に対し部屋や事務機器等の貸し出しを行った。

②区内の障害者に対して車椅子の貸し出しを行った。

事業名	R 3	R 2	R 元	事業名	R 3	R 2	R 元
パソコン教室 教室・相談・テーマ別	38	45	89	創作教室 手芸・編み物・工作 切り絵・絵画、和紙・折り紙	361	310	396
ダンス教室 (知的障害)	71	76	81	生活講座 知的	22	5	14
健康体操教室 (肢体不自由)	154	169	194	生活講座 高次脳機能障害	37	30	54
料理教室(知的)	35	0	45	聞こえにくい方の コミュニケーション講座	11	14	52
		0	39	点字講習会	126	111	111
PT 訓練				手話講習会(全5クラス) 入門・基礎・通訳 I	649	中止	2,266
言葉のリハビリ教室	133	135	216	朗読講習会	88	82	249
音楽教室 (歌・合唱)	60	46	111	要約筆記啓発講座	26	14	55
音楽教室(音楽療法)	67	35	55	造形ワークショップ	12	30	84
高次脳機能障害者 サポーター養成	44	47	46	手話体験 フォローアップ講座	32	293	

交流室	781	908	1,377	手話通訳者派遣事業	1072	691	779
合同交流会				要約筆記者派遣事業 (区/広域・派遣 C)	25	66	80

数字は延人数 斜線は事業開催なし

令和3年度 福祉工場しながわ事業報告

1. 総 括

利用者の関係では、6月に2名が新規利用、1月に1名が退所されている。

清掃事業は区内36カ所の公園清掃を請負うほか、旧大歳図書館等、臨時の清掃を請負った。清掃単価は引き続き単価交渉し、平米単価が微増となっている。

製パン事業は年度後半よりオペレーションの見直しを図っている。また原材料の仕入れ先を開拓し、コスト削減に努めている。

製陶部門は契約数以上の受注があり活況であった。引き続き環境整備と改善に努めている。

就労会計全体では、緊急事態宣言発出の影響があったが、昨年度比で増収となっている。

事業所では、事業所内研修、東社協、福祉保健局研修等、職員学習会等の機会を通して障害者差別解消法、人権意識の向上に努めた。

2. 利用者状況・稼働率 《令和4年3月31日現在》

(1) 入退所状況

	性別及び事由	合計
入所者	男性2名 他障害者施設及び在宅より	2名
退所者	男性1名 一般就労へ向けて活動	1名

(2) 障害支援区分（単位：人）

	非該当	区分1	区分2	合計
男性	0	10	17	27
女性	5	1	3	9

(3) 年齢構成（単位：人）

	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	65歳～	計
男性	1	4	13	6	1	2	27
女性	0	0	4	5	0	0	9

(4) 稼働率（年間平均）

年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率（%）	69.3	69.3	71.0

(5) 在所期間状況（平均在所14.7年）

	0～2年	3年～	5年～	10年～	計
男	2	1	7	17	27
女	0	0	0	9	9

(6) 愛の手帳

	2度	3度	4度	計
男	0	10	17	27
女	0	6	3	9

(7) 実施機関：品川区33名、江東区1名 大田区1名 目黒区1名

3. 支援・業務経過

(1) 支援全般

従業員 1 人ひとりに適した作業支援、作業環境の整備に心がけ、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

(2) 日課、作業状況

○第 1 業務(8:00～16:00)

	場 所	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
公園清掃	区内公園	36 公園 4318 回	36 公園 3890 回	35 公園 3991 回
	鮫洲公園	240 回	210 回	241 回
建物清掃	12 箇所	延 3449 回	延 3169 回	延 3254 回

○第 2 業務 (7:00～19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	238 日	通常営業 (パン製造・販売)
定例外部販売	217 日	品川翔英、大井林町、八潮南 GH、学研城南職業能力開発センター、マクニカ他
出張販売・出店	37 回	目黒街角クリスマス等*記念品等の納品あり

○第 3 業務(8:00～16:00)

骨壺種類	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
7 号 (大人用)	8317	7383	6886
6 号～3 号	253	433	309

(3) 作業支援

従業員個々が考え、責任感を持って仕事に取り組めるよう働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へ繋がるよう援助した。

(4) 行事等

/納涼会 (32 名) *事業所内にて飛沫防止対策構築の上実施。

(5) 健康管理

健康診断 (法定) を実施、健診後のフォローも産業看護師と協力して相談、改善へと繋げている。

(6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

4. 売上状況

(円)

売上	第 1 業務	第 2 業務	第 3 業務	合 計
令和 3 年度	70,300,472	18,796,513	46,665,500	135,762,485
令和 2 年度	66,585,097	21,408,008	41,548,400	129,541,505
令和元年度	65,732,642	27,595,599	37,392,674	130,720,915

5. 賃金支払い実績 (単位: 円)

	支払い総額
令和 3 年度	55,984,544
令和 2 年度	56,201,909
令和元年度	55,006,861

令和3年度 鮫洲なぎさの家事業報告

1. 総括

新規世話人の採用もあり、安定した生活支援を進める事が出来た。

利用者の家族も高齢となり、帰宅が難しくなっている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなっている。コミュニケーションや話題性の提供により、社会性が保たれる部分が大きかった。行事としては、近隣散策の外出が好評であった。

食事の提供も、宅配業者から食材料を購入しての、メニューに従い決められた調理を実施しての提供も安定している。また、外食やデリバリー等を実施し、気分転換を図っている。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

2. 利用者状況・稼働率（定員6名）（令和4年3月31日現在）

(1) 入退所状況

・入退所なし

(2) 障害区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
女性	0	3	1	2	0	0	6

(3) 年齢構成（単位：人）

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	0人	0人	3人	2人	1人	0人	52.3歳

(4) 稼働率

年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
稼働率（%）	99.6	99.5	93.8

3. 支援経過

(1) 支援全般

世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に配慮した日課作りを進めた。

個々の問題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

(2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での食事作り、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効果は

健康面に反映されている。一方で多様な食事・嗜好に対しては、短時間での近隣の中華料理、回転すし、レストラン等で食事機会を設けた。また、誕生月でケーキでのお祝いも継続して実施した。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有意義な食生活であった。

(3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的生活支援を行い、個人の生活を大切にした掃除や洗濯等の基本的生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。その他、余暇活動としてドライブを実施、また、お花見会、クリスマス会、初詣外出を実施した。

(4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者4名は定期通院に付添し、担当医に日常の経過報告を正確に伝え、治療を進めるとともに、服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また、区民検診、インフルエンザ予防接種及びコロナウィルスワクチン接種は全員3回実施済み。

4. 會議・研修

東京都グループホーム研修会（リモート）に参加。個別支援計画打合せ、職員会議を実施。

5. 就労、通所支援

- (1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。
- (2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事にサービス管理責任者が出席し、連携を図っている。

6. 家族・地域との関わり

保護者会を1回実施した他、出席できない家庭には「家庭訪問」や「個別面談」を実施した。必要に応じて家族と連絡をとり、課題の解決を図ってきた。また、地域行事の「バーベキュー」はコロナ過のため統括施設長と理事のみ招いて実施。

7. 安全管理

避難訓練（防災・震災）を年間12回実施

エレベーターインバーター工事実施。

コロナ対策として帰寮時に使い捨てコップでのウガイを徹底。 以上

令和 3 年度 さつき事業報告

1. 総括

令和 3 年度の作業は、ウェディング会社の砂袋入れ作業や、アロマポット洗浄は、安定していた。また、箱折等の作業は、全国各地の災害発生により物流が悪くなった為、売り上げが落ち込んだ。ケーキ箱の組み立てなどは継続して作業を実施した。

花ふきんは福祉ショップでの売り上げやバザー、個人注文で安定した売り上げとなった。

クリーニングでは、全体的に予定以上の売り上げを達成した。次年度も関係機関と情報を共有し、工賃向上に努めていく。

喫茶売店については、各メーカーの価格上昇や冷凍食品の仕入れ先が少なくなってきたおり、タバコの売り上げも落ちている。新たな喫茶メニューの展開、冷凍おにぎり等の販売拡大、売れ筋の安価なカップ麺の販売も行ったが、売り上げは低下した。今後も目標工賃達成指導員を中心に試行錯誤しながら継続して工賃向上に努めていく。

利用状況では新規利用者はなく、数名が退所された。12 月までは、目標値を大きく上回る稼働率であったが、1 月に職員の新型コロナウイルス罹患により大きく稼働率を下げた。2 月、3 月も伸び悩み、結果年間平均稼働率は、98.2%となった。

2. 利用者状況（令和 4 年 3 月 31 日現在）

（1）入退所状況 （単位人）

	性別及び事由	合計
入所者	0 名	0 名
退所者	女性 2 名 軽費老人ホーム	2 名

（2）障害区分 （単位人）

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男性	9	4	6	3	4	1	0	27
女性	8	0	2	4	8	2	0	24
合計	17	4	8	7	12	3	0	51

（3）年齢別 （単位人）

年代	20	30	40	50	60	70	合計
男性	2	5	5	9	4	2	27
女性	3	2	7	5	6	1	24
合計	5	7	12	14	10	3	51

（4）稼働率

令和年度	3 年度	2 年度	元年度
利用率（%）	98.2	102.6	105.5

3. 支援全般

(1) 就労売り上げ、工賃実績

就労売り上げ

単位：円

作業班	令和3年度	令和2年度	令和元年度
軽作業	3,538,883	2,979,800	3,933,422
軽作業（清掃）	302,500	302,500	298,660
自主製品	1,577,070	1,916,907	1,689,525
喫茶・売店	17,052,895	21,496,108	21,768,178
クリーニング	34,127,687	32,870,651	32,469,852
合計	56,599,035	59,565,966	60,159,637

工賃実績

単位：円

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
軽作業・支給総額	4,791,482	4,531,502	4,808,136
軽作業・最高額	18,667	18,468	19,530
軽作業・月平均額	9,104	8,504	9,104
クリーニング・支給総額	11,035,453	10,567,470	11,884,313
クリーニング・最高額	42,355	41,184	40,524
クリーニング・月平均額	23,745	22,665	22,954

(2) 健康管理

①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液一般、心電図等実施。

②嘱託医による健康相談を毎月1回実施（従事業所は第3火曜日）。

(3) 就労移行支援、就労継続支援A型その他への移行、一般就労等なし。
余暇支援は新型コロナウイルス感染予防のため、実施出来なかった。

4. 会議、研修

職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、現任研修、虐待防止委員会等を実施した。

5. 実習生

実習生は有明教育短期大学より1名、品川介護専門学校より1名受け入れをした。

6. 防災

主事業所は新型コロナウイルス感染に十分注意し、ピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。従事業所は、上記同様感染に十分注意し、本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

令和3年度 八潮中央保育園事業報告

1. 総括

年間を通して、定員を満たした状態で運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症関連では、令和4年2月より園児の陽性が相次ぎ、登園自粛要請を3回行った。感染対策として、行事の中止や規模を縮小しての開催、濃厚接触者の拡大を防止するため異年齢間の合同保育の中止、日常生活では手洗いの励行の強化、食事場面でのパーティションの利用等を行い感染防止に努めた。

2. 利用者状況

令和3年度年齢別利用状況 (令和4年3月31日現在 単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	107	180	180	239	240	236	1182
月平均在籍数	9.0	15.0	15.0	20	20	20	99

利用率 (%)

年 度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
利用率	110	110	110

延長夜間保育利用状況 (人)

年 度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均延人数	60	113	161

3. 保育経過

(1) 保育全般

全体的な計画を基に、各クラスの指導計画に沿って園児一人ひとりの健やかな成長を第一に考えて保育を行った。

(2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。

幼児クラスは感染防止に配慮しながら、行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れつつ、散歩や園庭遊び等で身体を動かした、集団遊びを積極的に取り入れた。

(3) 行事

新型コロナウイルス感染症対策のため、中止、規模の縮小はあったが、感染防止に努めながら、子ども達に行事の由来や意味を伝え、行事の雰囲気を楽しめるように配慮した。

(4) 健康管理

新型コロナウイルス感染症の罹患者は複数名見られたが、集団感染には至っていない。胃腸炎は年に数回、クラス内での罹患が拡大することが見られた。

コロナウイルス感染症対策強化として、高性能空気清浄機、超音波式除菌加湿器の設置や園児、保護者、職員の毎日の検温を行った。

ケガによる通院件数は6件あり、室内や戸外での転倒による歯牙の打撲が年齢を問わず多い。

(5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書をもとに除去食を提供している。

(6) 地域交流

新型コロナウイルス感染症対策として、地域の関係機関との交流は実施していない。

(7) 一時保育

利用件数は0件。乳児クラスの申し込みがあったが、受け入れ態勢が整わずお断りした。

4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、キャリアアップ研修、その他様々な団体主催の研修に職員を派遣した。新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン形式の開催となったものが多かった。

会議については月1回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。感染防止の観点から会議の参加人数は各クラス1名に制限し、必要時は園内でzoomを利用し、情報周知を行った。

全体職員会議を年2回実施し、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。

5. 保護者との関わり

保護者会は参加人数を制限して実施した。主な内容は、クラス運営について、大規模改修延期について等である。

6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、2月に津波想定訓練、3月に時間や場所等を予告せずに緊急避難訓練を実施した。また、11月に安全対策として職員と年長児も参加しての不審者対応訓練を実施した。

7. 環境整備、備品購入

防災用として、非常食、LED投光器を購入した。

また、zoomのライセンスを取得し、各種会議や保護者会がオンラインで行えるよう、整備した。

令和3年度 八潮わかくさ荘事業報告

1. 総括

八潮わかくさ荘は、4～8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢84.8歳、要介護認定又は事業対象者の認定を受けている方が6名おり、内4名がヘルパー派遣や通所サービス等の介護保険サービスを利用している。1年間に退居した方は4名、退去後排水管交換工事を実施するため新入居者は1名と例年に比べ少なかった。

今年度の新規入居者については、日常生活においては自立している方が多く落ち着いている。また、同一建物にあるデイサービスで実施している通所介護や通所給食の利用等により連携した対応ができています。

夏場に熱中症予防を掲示や声掛けで呼びかけ、今年度においては早期対応も出来、居室内で逝去された方はいなかった。また、居住者間のトラブルについては、その都度区とも協議し対応を行った。今年度電気設備交換工事を年末に実施した。

2. 入居者状況

入居者の心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、支援センター、ワーデンが一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者37名、内要介護認定、事業対象者は6名となっている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

令和4年3月31日現在

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食・配食
令和3年度	2名	2名	2名
令和2年度	3名	4名	3名
令和元年度	3名	4名	2名

3. 設備管理

建物の老朽化が進んでおり、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう営繕と連携し対応した。

4. 防災訓練

新型コロナウイルス感染拡大により、例年実施していた60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練については中止となった。八潮在宅サービスセンター、支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練も新型コロナウイルス感染予防のため不参加とした。

5. その他

ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応していたが、令和3年6月よりワーデン1名が退職。令和4年3月末現在まで募集するが見つからず職員が宿直業務に入っている状況が続いている。

令和3年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

1. 総括

大井倉田わかくさ荘は、2階建て建物の1階部分計8戸の小規模な単身者用高齢者住宅である。この住宅の管理は、夜間、保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知の24時間機械警備を実施した。平日の昼間は同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けている。基本的には自立・自活されている高齢者が入居しており、現在介護保険サービス利用されている入居者はいない。

2. 入居者状況（令和4年3月末現在、5名入居）

- ・3室の居室内のリニューアルと給水管の引直し工事のため、新入居を止めている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

令和4年3月31日現在

福祉用具貸与	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食
0名	0名	0名	0名

3. 設備管理

各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応し、区の担当部署と連携し退去後に内外部のリニューアル工事を行っている。また、消防設備の点検を年間2回、敷地内清掃を毎月実施している。

4. 防災訓練

サービスセンターとの避難訓練（9月24日）に参加を呼びかけた。当日はわかくさ荘101号室からの出火想定とし、入居者8名中3名の参加があった。

5. その他

- ・警備会社の警報発報による出動が4回。原因としては、換気扇未使用による熱感知センサーによる火災警報であった。

令和3年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

1. 総括

当事業の実際の運営に専属職員はおかず、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。

令和3年5月～6月下旬まで、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、休館となった。7月から開館したが、飲食禁止、全ての事業はスタッフを含め6名の予約制として実施した。火曜日・金曜日に実施されていた縁側カフェの枠はピンコロ道場を実施、土曜日に実施されていた多世代交流事業「ひなたぼっこ」の実施は難しい為、品川区の判断で中止となった。介護予防事業については積極的に行うようにという区の意向を受け、「ミニ健康教室」を開催。「ひなたぼっこ」の枠の土曜日を使用して開催した。専門職から学べる講座ということで、常に定員数以上の申し込みがあり、申し込み方法を工夫している。

緊急事態宣言中も、園芸療法・ピンコロ道場・地域ミニデイ、ミニ健康教室を実施し引きこもり防止、生活活性化等の介護予防の場を設け役割を担った。

2. サービス・事業内容

(1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

- ①園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじりや草花や野菜などの園芸活動や、身の回りにある自然との関わりを通して、心身の健康維持、回復を目指した。
- ②ピンコロ道場に、生活総合機能改善機器「DKエルダーシステム」のカラオケ機を導入し火曜日・金曜日に実施し、地域ミニデイ事業の卒業生の行き場作りとして健康体操を中心に開催した。
- ③9月の開催予定の地域交流事業「こすもすパーティー」は、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。
- ④ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。
- ⑤大井第二地区 支え愛ほっとステーション「よりみち」に部屋を貸し出し外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。

(2) 介護予防事業

・地域ミニデイの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニデイサービスを実施、健康作り体操等高齢者の介護予防を進めた。

・ミニ健康教室の開催

健康に関するテーマを様々な視点から取り上げ、専門職から学ぶ講座を実施。ボランティア団体の協力を得て、ますますの健康増進と生活の活性化を進めた。

(3) ボランティア講座

- ・「自分らしい終活ってどんなこと？」心豊かに活動するために知識を深め、より良い支援の輪を広げ、地域福祉力の向上を目指す。

日時 令和3年3月12日（土）

開催場所 大井第2地域センター集会室

参加者人数 19名

講師 終活コンシェルジュ 池田朋子氏
司法書士 齊藤進氏

(4) その他

- ・夏期は品川区の「避暑シェルター」事業による水分補給の場として開放した。

※ 5月・6月、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、休館

事業名	開催回数	利用者数（人）		備考
		令和3年度	令和2年度	
縁側カフェ	中止	中止	中止	
園芸療法	36	87	94	
地域ミニデイ	40	195	218	
ピンコロ道場	81	377	234	30年3月開始
ミニ健康教室	9	40	—	令和3年4月開始
「ひなたぼっこ」	中止	中止	中止	多世代交流事業 (工作・おやつ作り)
その他	439	362	525	避暑シェルター他
こすもすパーティー	中止	中止	中止	地域交流事業(9月)
合計（直営事業）	605	1,061	1,071	

ほっとサロン	24	118	14	品川ボランティアセンター事業
フリースペース「よりみち」	27	168	34	大井第二地区支え愛・ほっとステーション